

グループビジョン2030進捗報告会

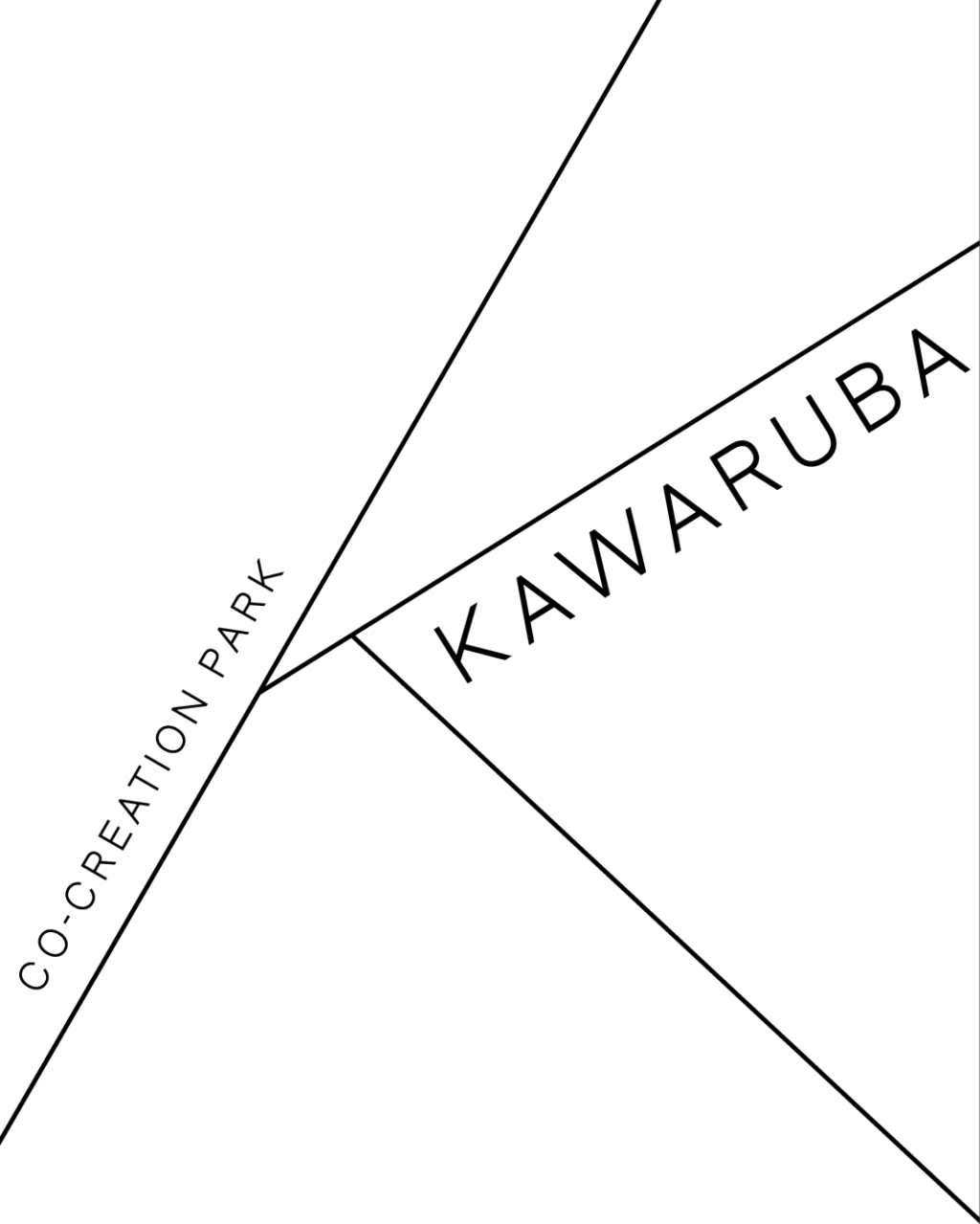
2026年10月6日

川崎重工業株式会社

代表取締役社長執行役員

橋本 康彦





①

全社の重点投資方針

②

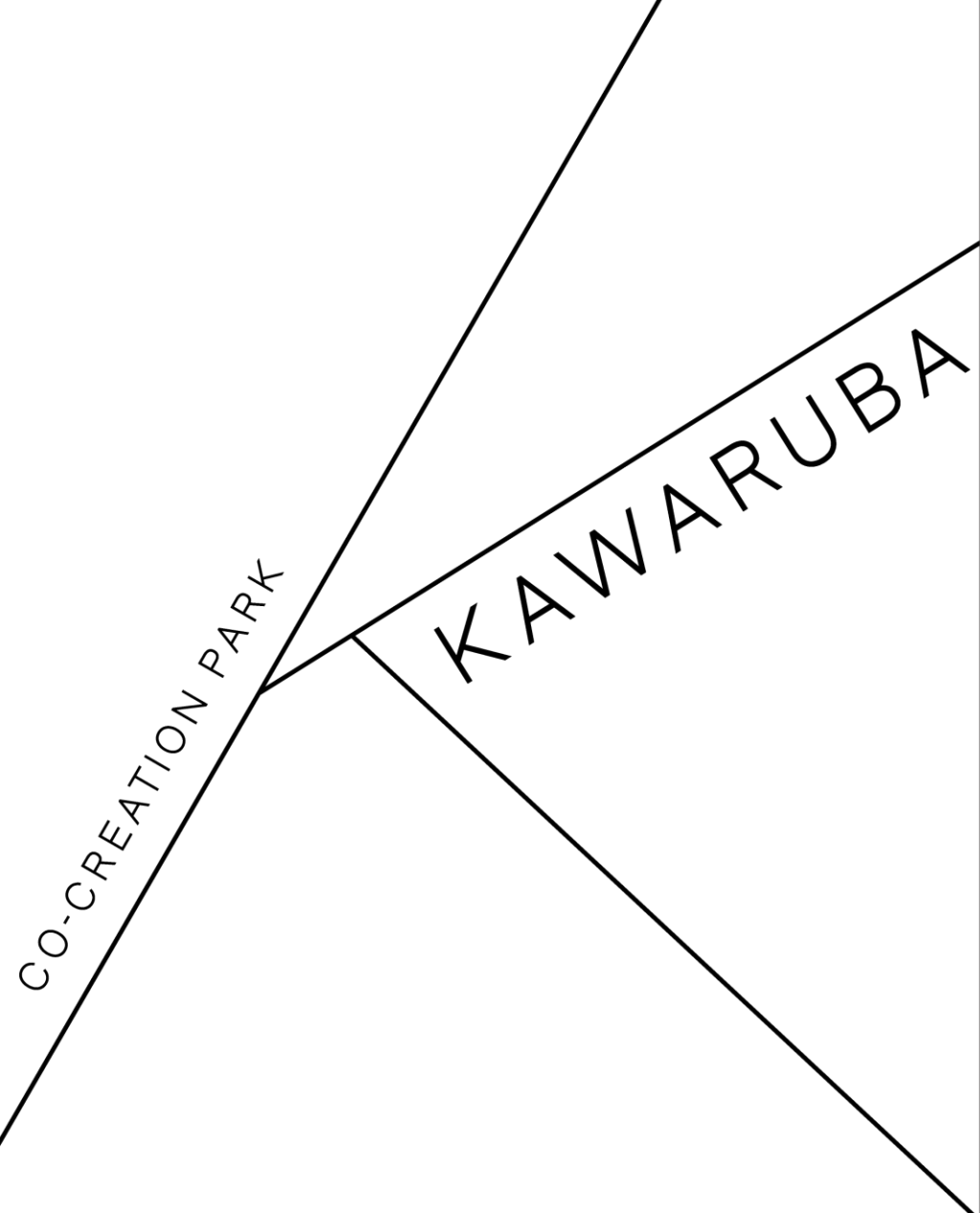
防衛事業

③

エネルギー事業

④

フィジカルAI



安全安心
リモート社会

近未来
モビリティ

エネルギー・環境
ソリューション

①

全社の重点投資方針

②

防衛事業

③

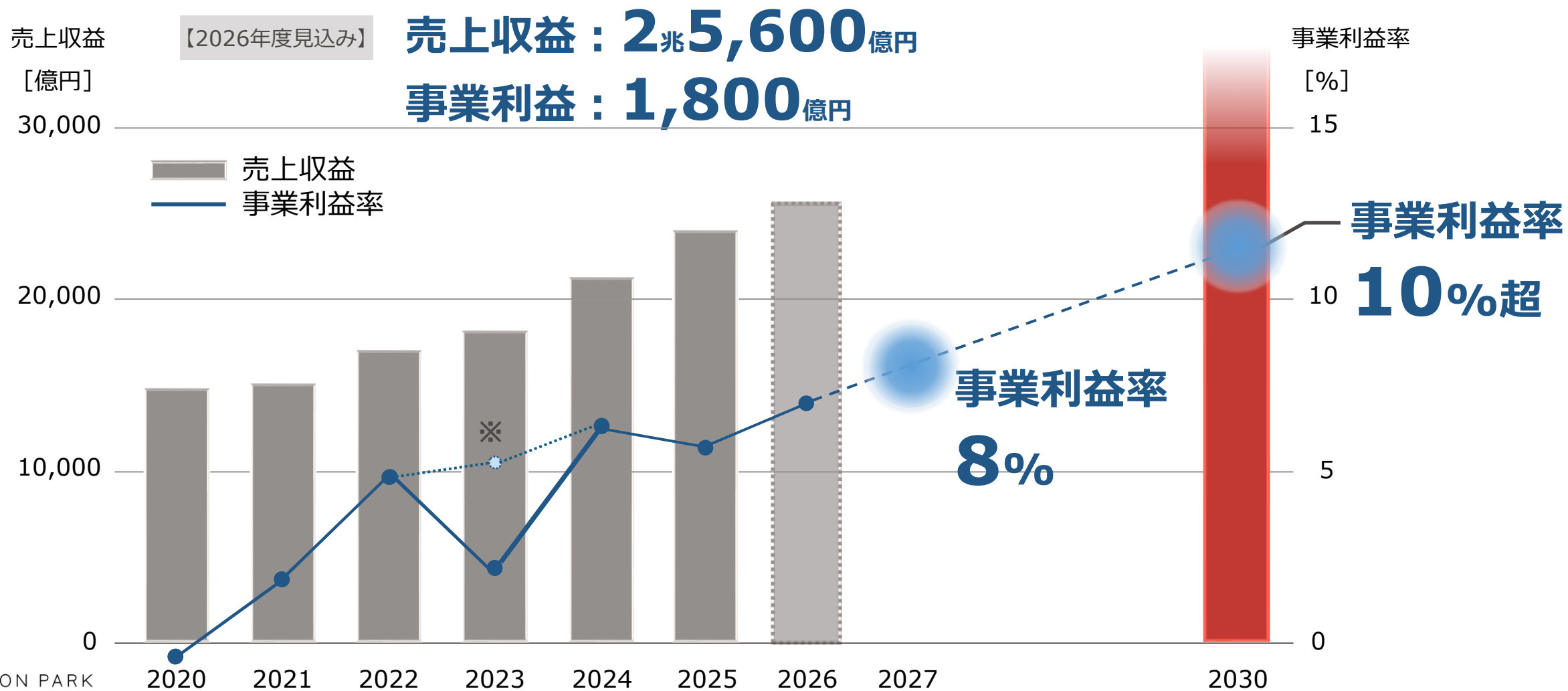
エネルギー事業

④

フィジカルAI

3年間を振り返って

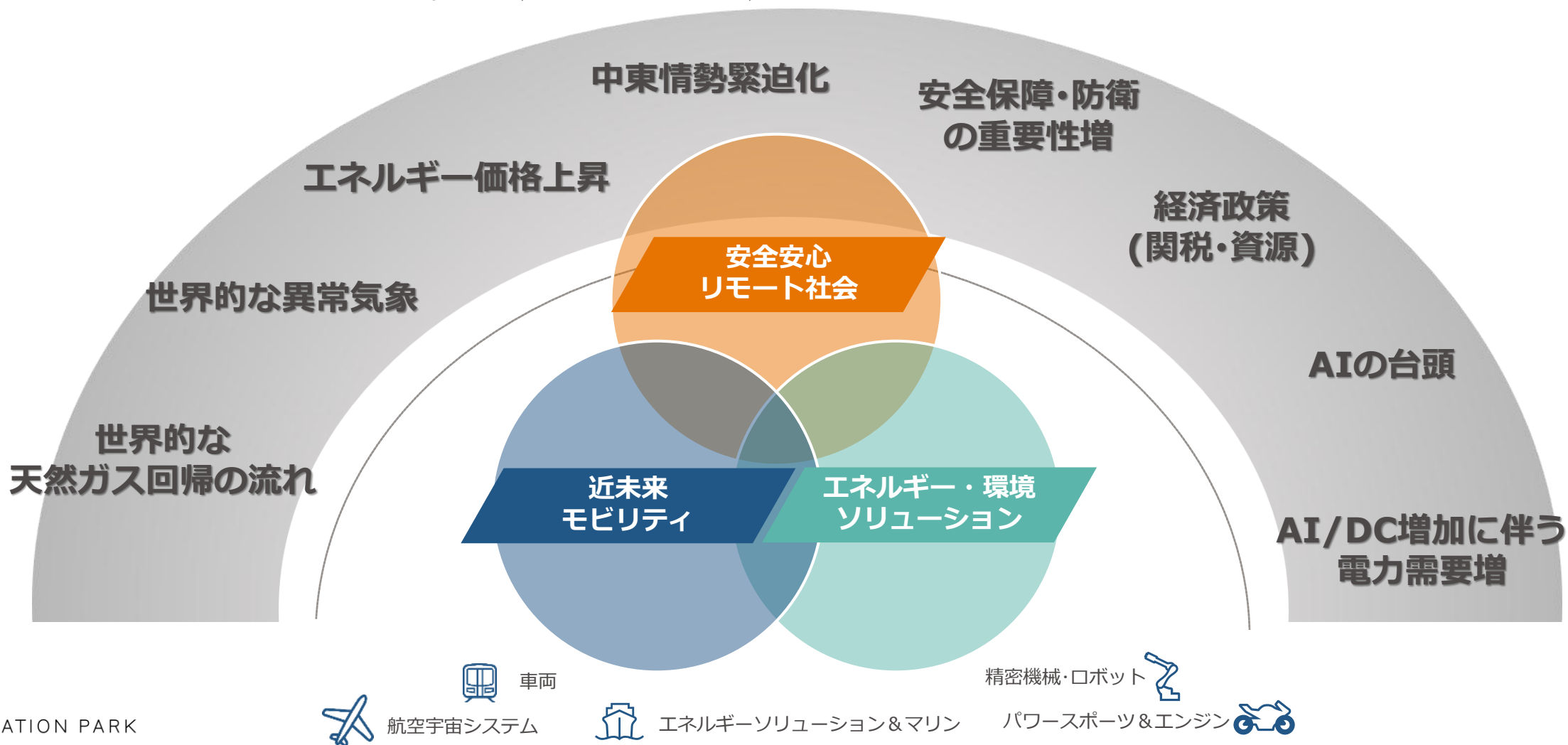
■ 2024・2025年度は、売上収益・事業利益とも過去最高を更新。2026年度も過去最高更新を見込む



※：PW1100G-JM の一過性損失を織り込まなかった場合の事業利益率

事業環境の変化

- 2020年にグループビジョン2030 3つの注力フィールドを策定後、6年間で当社事業を取り巻く環境は大きく変化・ますます複雑に



日本の戦略17分野に当社事業領域は多数該当

- 昨今の社会情勢を踏まえ策定された**日本の戦略17分野**に多数該当
- **国策と連動**し、当社事業も**さらなる飛躍**へ

日本の戦略17分野

AI・半導体	デジタル・サイバー セキュリティ	情報通信
量子	防衛産業	航空・宇宙
海洋	造船	マテリアル
合成生物学・バイオ	創薬・先端医療	資源・エネルギー 安全保障・GX
フュージョンエネルギー	フードテック	防災・国土強靱化
港湾ロジスティクス	コンテンツ	

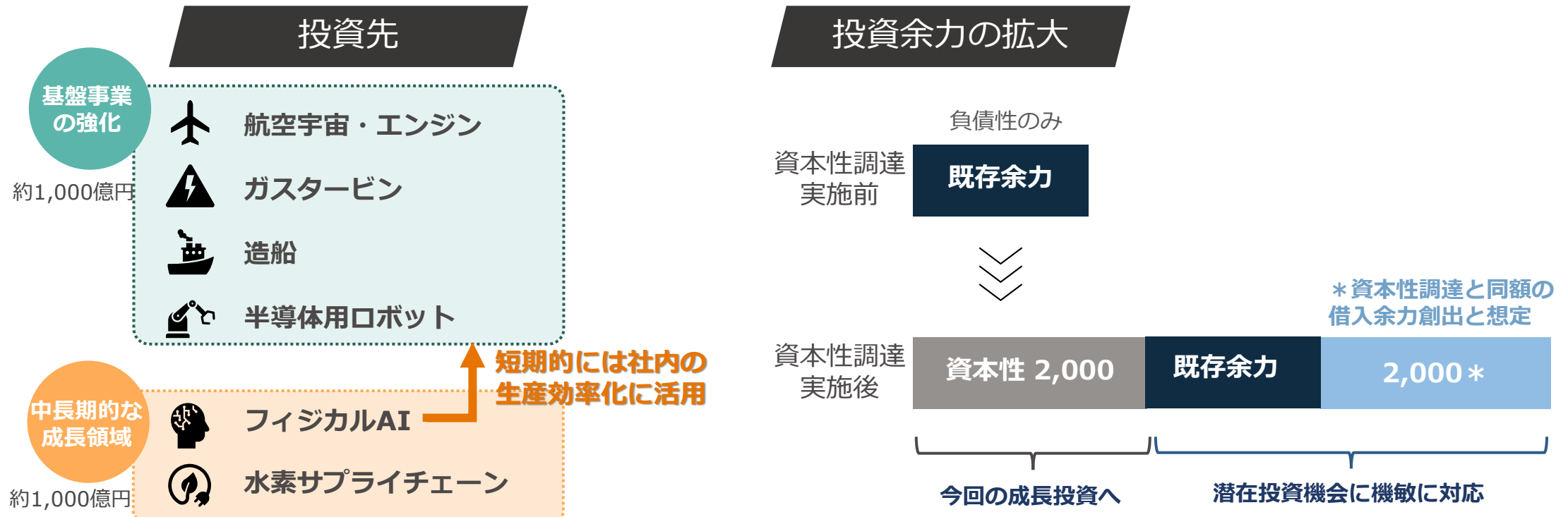
8分野 / 17

資本性調達を実施し成長投資を加速

外部環境の変化を追い風に、当社事業の成長をさらに加速すべく、
約**2,000億円**の**資本性調達**を本年7月に実施（公募増資：約1,000億円、CB※：約1,000億円）

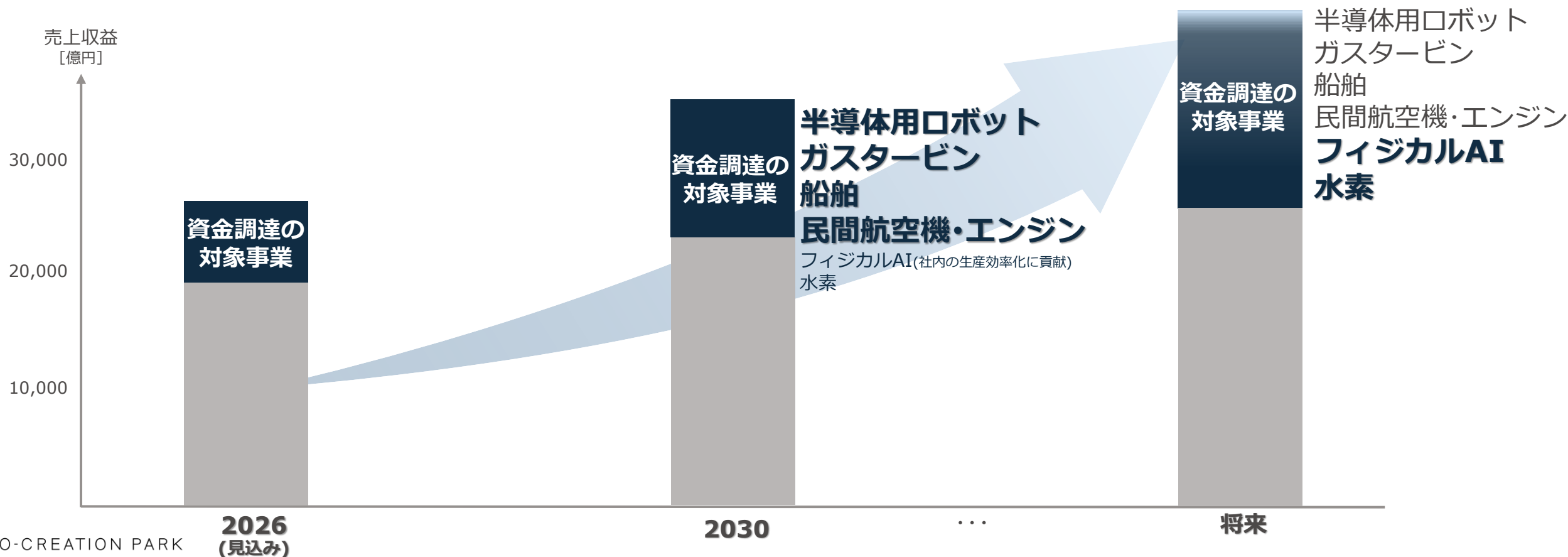
- ✓ **基盤事業の強化**と**中長期的な成長領域への投資**を実行
- ✓ **財務健全性（ネットD/Eレシオ50%程度を目安）と投資余力拡大を両立**

※転換社債型新株予約権付社債



資本性調達対象事業の成長

- 資本性調達による投資効果は2028年頃から顕在化する見込み
- 短期的には**ロボット・ガスタービン等の増産**や**各事業の生産工程でのフィジカルAI活用**による投資効果、
長期的には**水素・フィジカルAI**などでの投資効果が大きくなる見込み

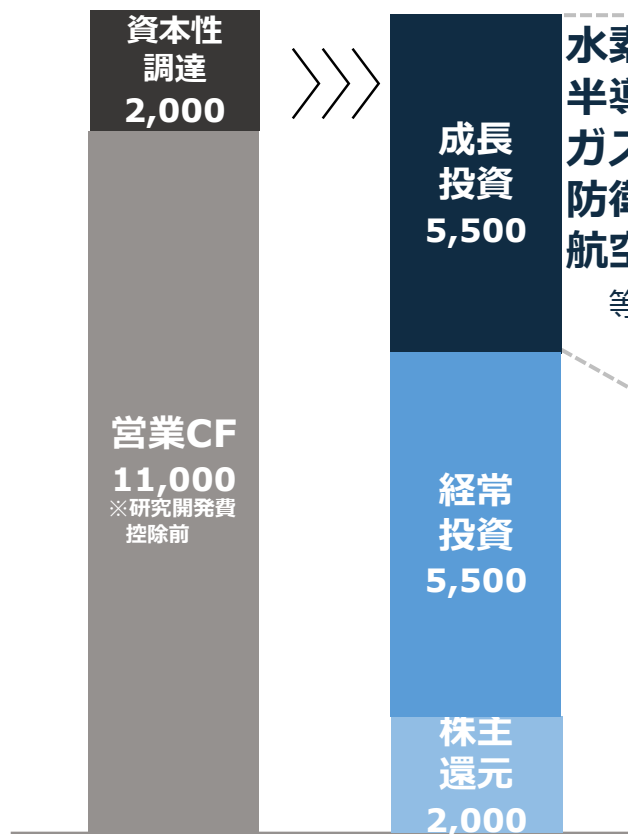


キャッシュアロケーション（2027～2030年度）

- 2027～2030年度の4年間で、現在高収益かつ将来の大幅な成長が見込まれる主力事業と、中長期的に飛躍的な成長が見込まれる新規育成事業を中心に投資
- 資本性調達はそのら事業への投資に充当

約1.3兆円

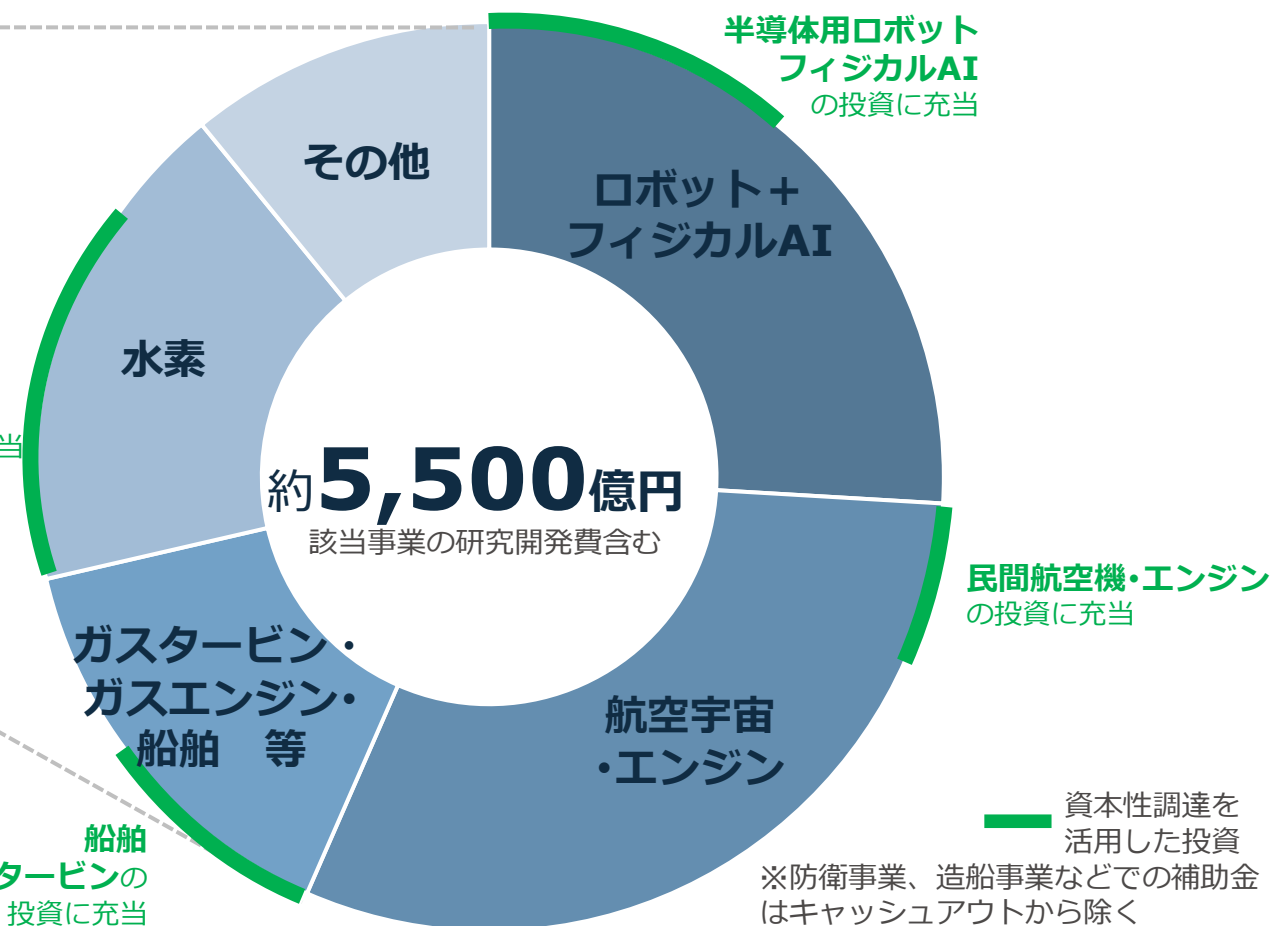
約1.3兆円



キャッシュイン

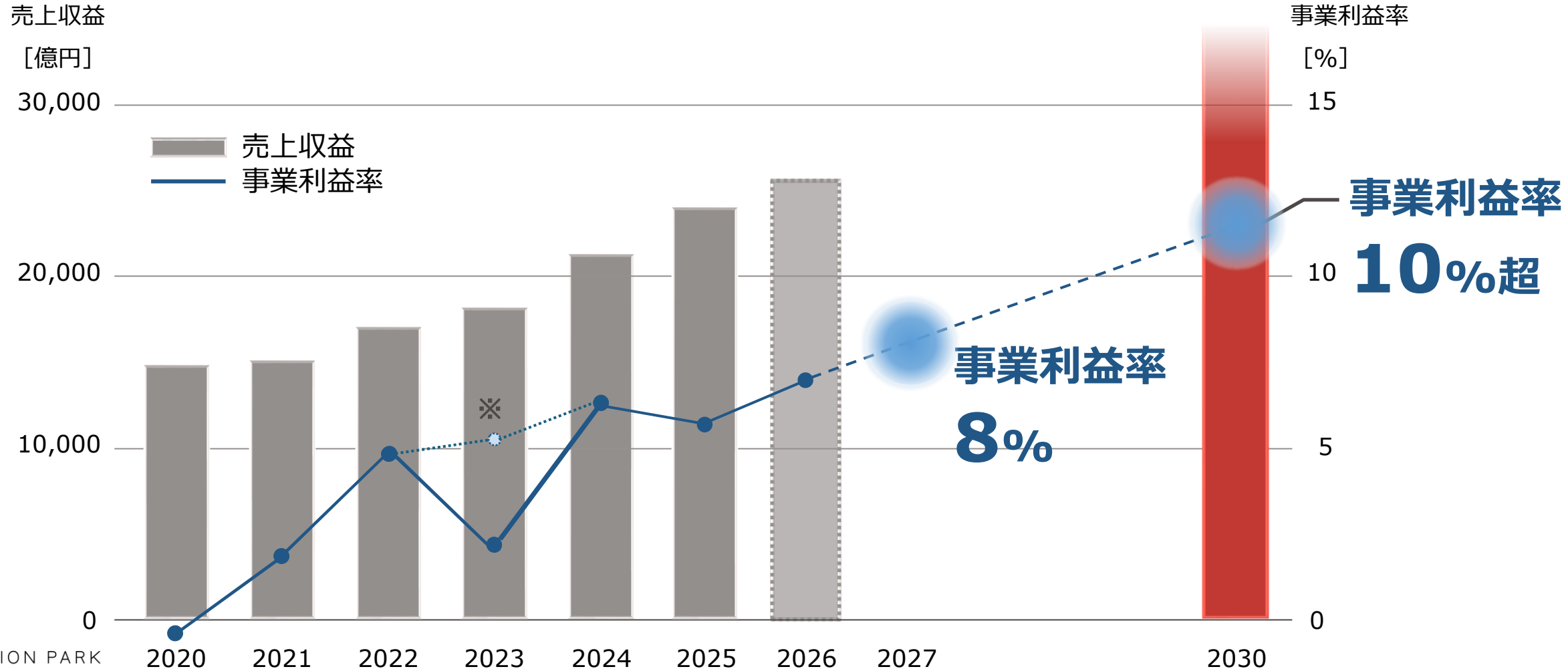
キャッシュアウト

水素
半導体用ロボット・フィジカルAI
ガスタービン、ガスエンジン
防衛
航空機・エンジン
等の事業への成長投資(増産対応等)



2030年に向けた事業計画のアップデート

資本性調達を活用した、他社に先駆けた確実・機動的な投資を実行し、
2030年度に**売上収益3.3兆円超、事業利益3,300億円超(事業利益率10%超)**を実現する



セグメント別売上収益イメージ

2030年にかけて、航空宇宙システム、エネルギーソリューション&マリン、精密機械・ロボットの売上比率が高まる見込み

2026年度売上収益 (見込み)



2030年度売上収益 (イメージ)



社会の変化にあわせて、当社のソリューション提供も加速



航空宇宙システム



車両



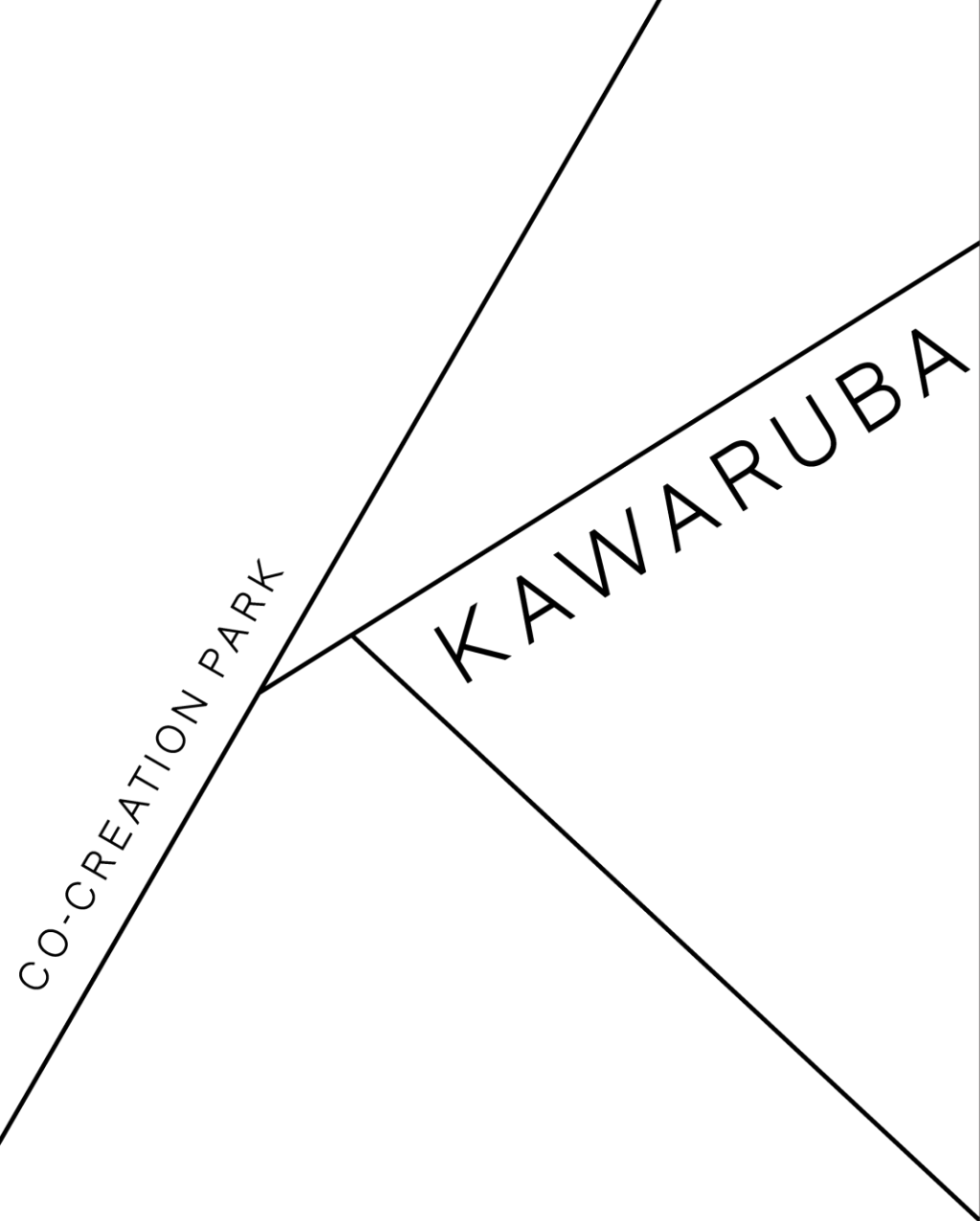
エネルギーソリューション&マリン

精密機械・ロボット



パワースポーツ&エンジン





安全安心
リモート社会

近未来
モビリティ

エネルギー・環境
ソリューション

①

全社の重点投資方針

②

防衛事業

③

エネルギー事業

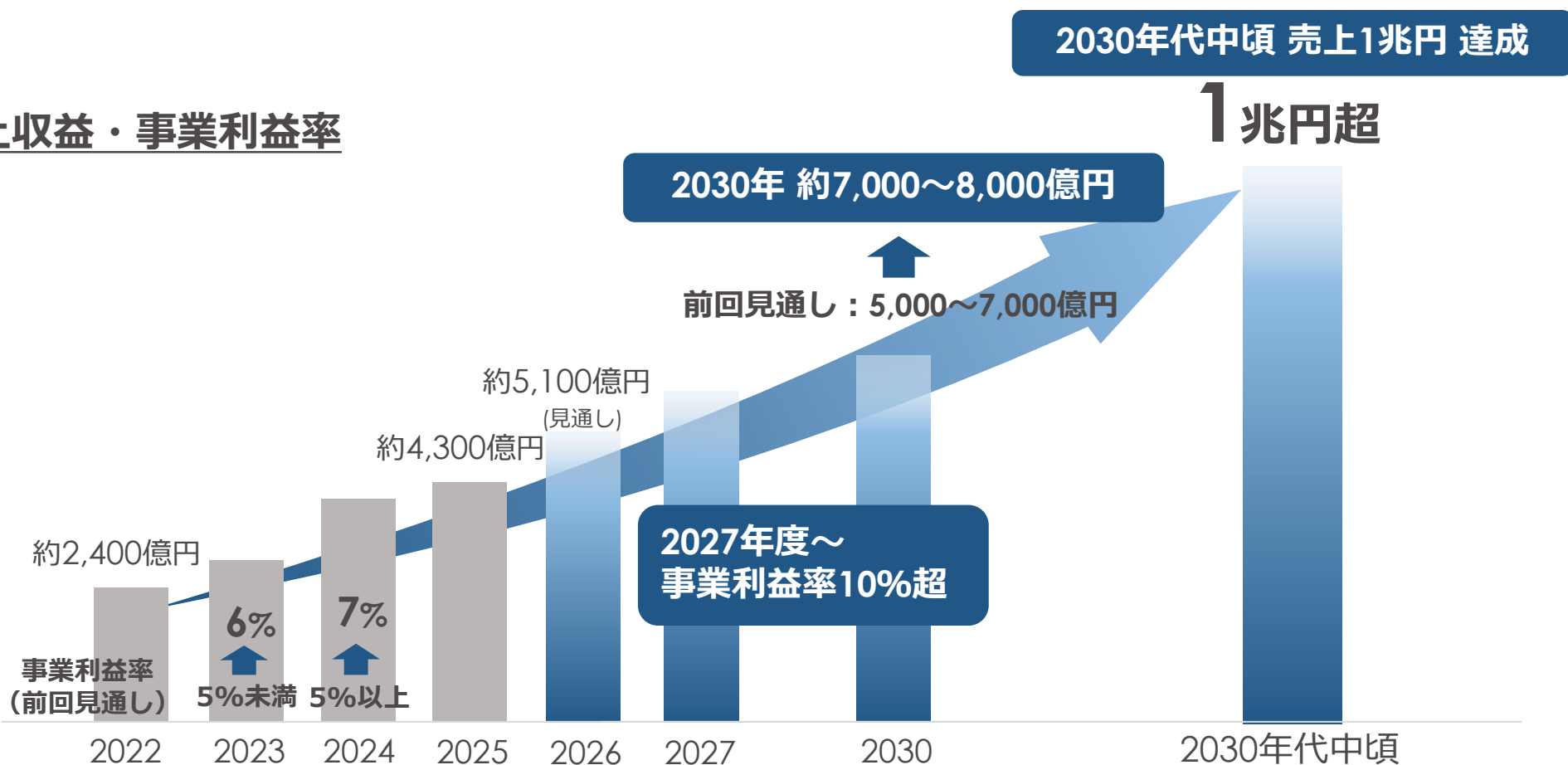
④

フィジカルAI

防衛事業の進捗と更なる成長

- 防衛費増額を追い風に、2030年度の売上収益見通しを**約7,000～8,000億円へ上方修正**
- 「新しい戦い方」への取組みにより、**2030年代中頃に売上収益1兆円超達成**を目指す
- 防衛事業の事業利益率は、契約制度改正等により、**2027年度以降10%超を実現見通し**

売上収益・事業利益率



既存事業の成果

SOJ

(スタンド・オフ電子戦機)

✓ 2026年6月初号機納入



量産及び機能拡充
の促進

新SSM

(島嶼防衛用新対艦誘導弾)

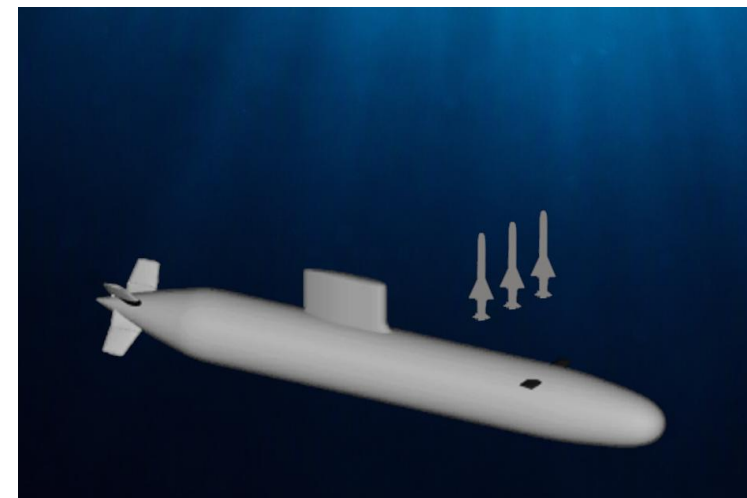
✓ 2025年発射試験成功



次世代SSM
へ発展

スタンド・オフ 防衛能力

✓ 2025年度研究試作受注



技術データ
の蓄積

防衛予算の見通し

■ 「新しい戦い方」への対応強化 無人アセット防衛能力・AI等への注力

防衛省予算区分

- 無人アセット防衛能力
- スタンド・オフ防衛能力
- 統合防空ミサイル防衛
- 指揮統制・情報関連機能
- 領域横断作戦能力
- 機動展開能力・国民保護
- 持続性・強靱性
- 防衛生産基盤の強化
- 研究開発
- 基地対策
- 教育訓練費、燃料費等

7つの重視分野

約43.5兆円

安全保障環境の変化



AI・無人機の急速な普及



周辺国間における
軍事協力の深化



周辺国の
太平洋方面への進出



同盟国の
安全保障政策の変化

■ 新たな3本柱・9項目

① 「新しい戦い方」への対応

AI／無人アセット／スタンド・オフ／
統合防空ミサイル／宇宙／サイバー

② 持続的な対応能力

太平洋・シーレーン防衛

③ 防衛力の基盤

防衛生産・技術基盤／人的基盤

現行計画

2023-2027年度

次期計画

2027-2031年度

次々期計画

2032-2036年度

「新しい戦い方」への当社の取組み

現在の技術・知見



重点取組み

AI技術の深化



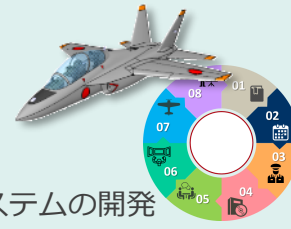
スタートアップ企業との協業



海外企業との連携



教育システム開発



KJエンジン自社開発推進



【各種基盤に対する投資】

「新しい戦い方」を実現する システム・装備

① 有人機と無人機との連携



② 自律協調システム



③ 統合教育訓練システム



④ KJエンジン



AI・DE

Artificial Intelligence Digital Engineering

研究開発

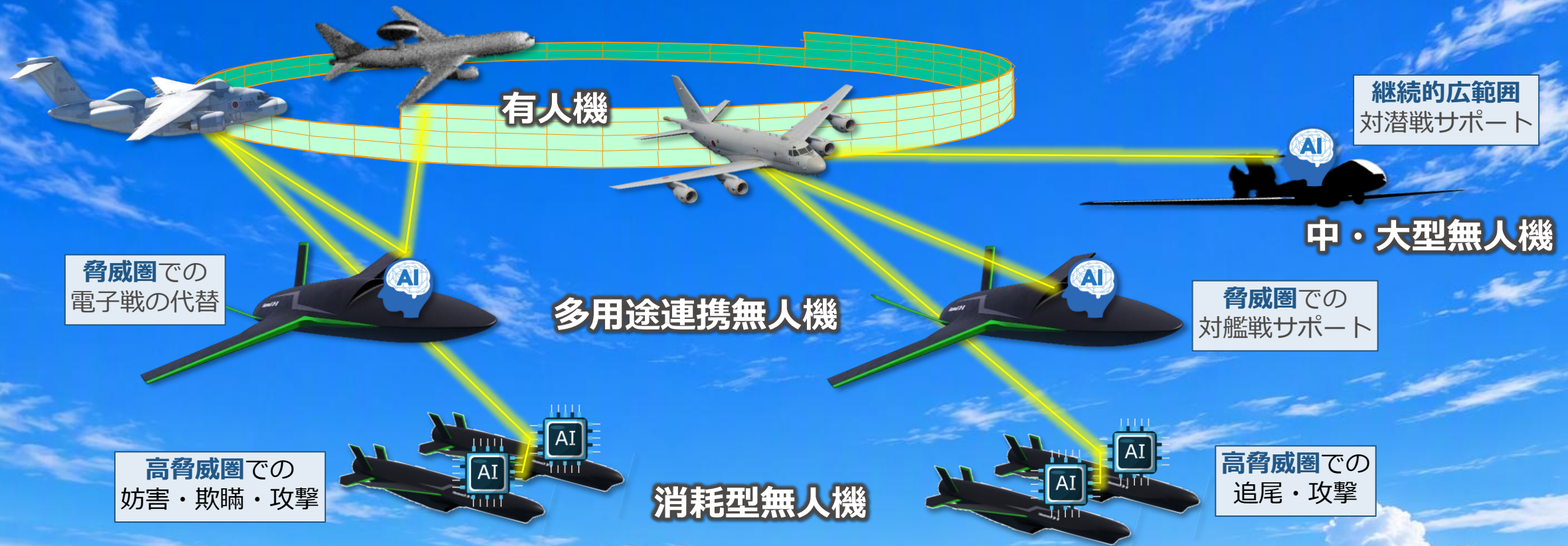
量産・製造

認証体制

セキュリティ

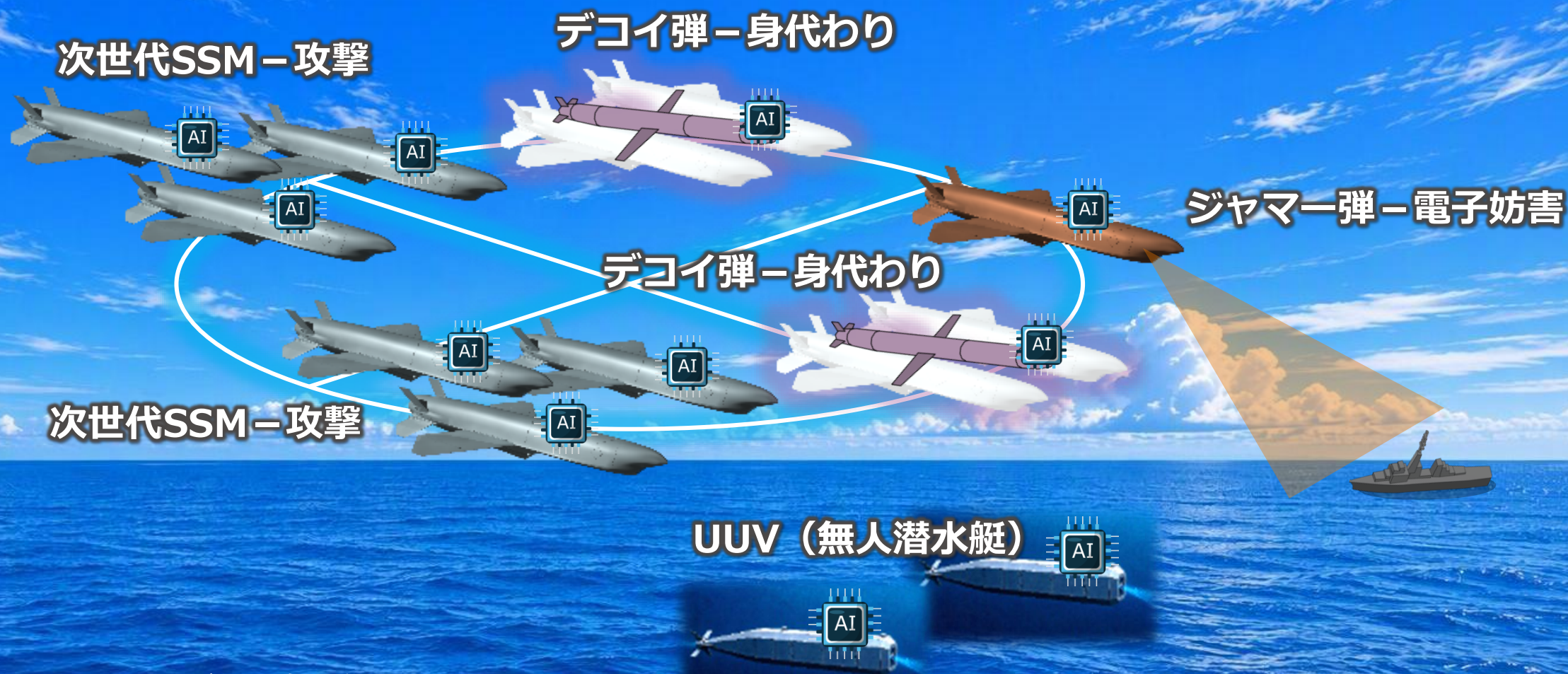
「新しい戦い方」の実現① 有人機と無人機の連携

■ 有人機の任務を補完・代替する無人機への取り組み



「新しい戦い方」の実現② 自律協調システム

- 遠隔・高脅威圏において、与えられた指示により『エッジAI※』が協調してミッションを達成



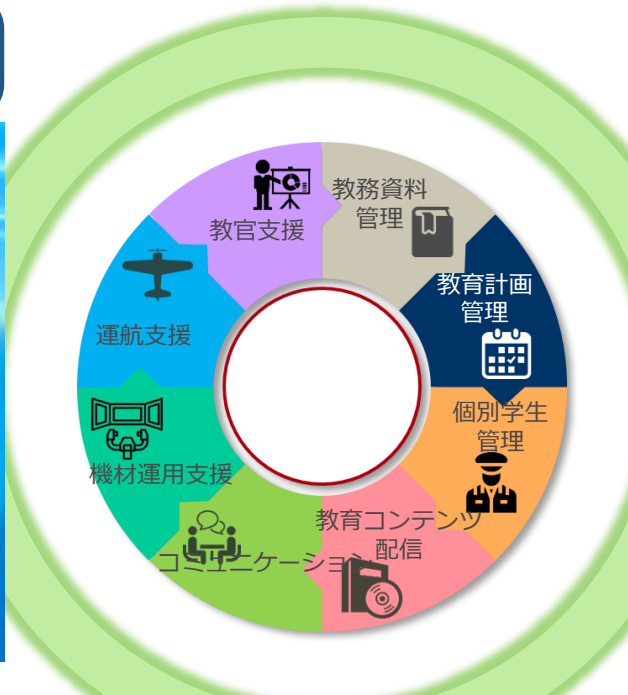
※エッジAI：クラウドや遠隔のサーバーに依存せず、
機器の演算装置上で情報を処理するAI技術

本画像は生成AIを用いて作成

「新しい戦い方」の実現③ 統合教育訓練システム

■ AIを活用した効果的な教育訓練システム

先進地上訓練装置



次世代練習機

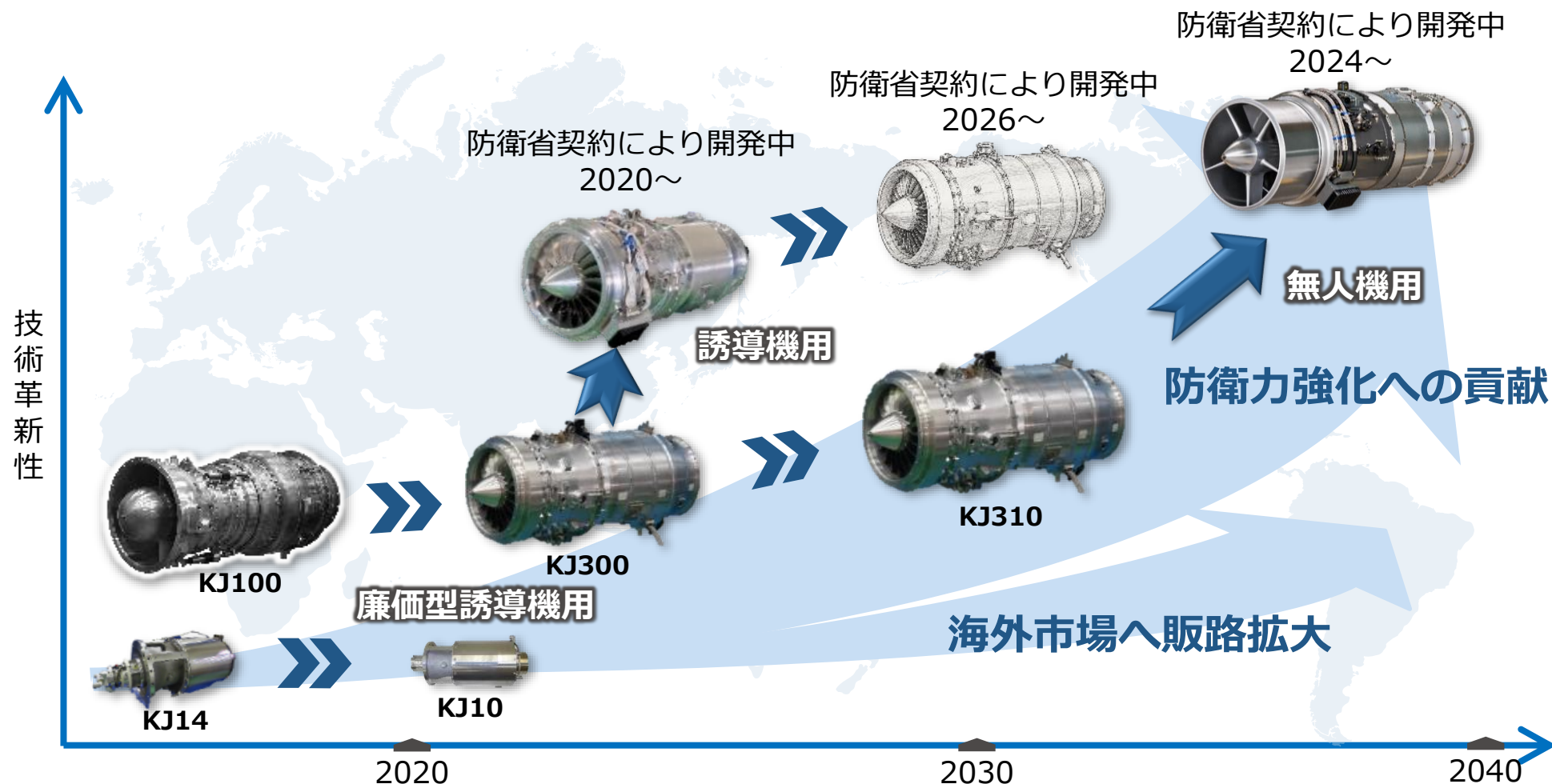


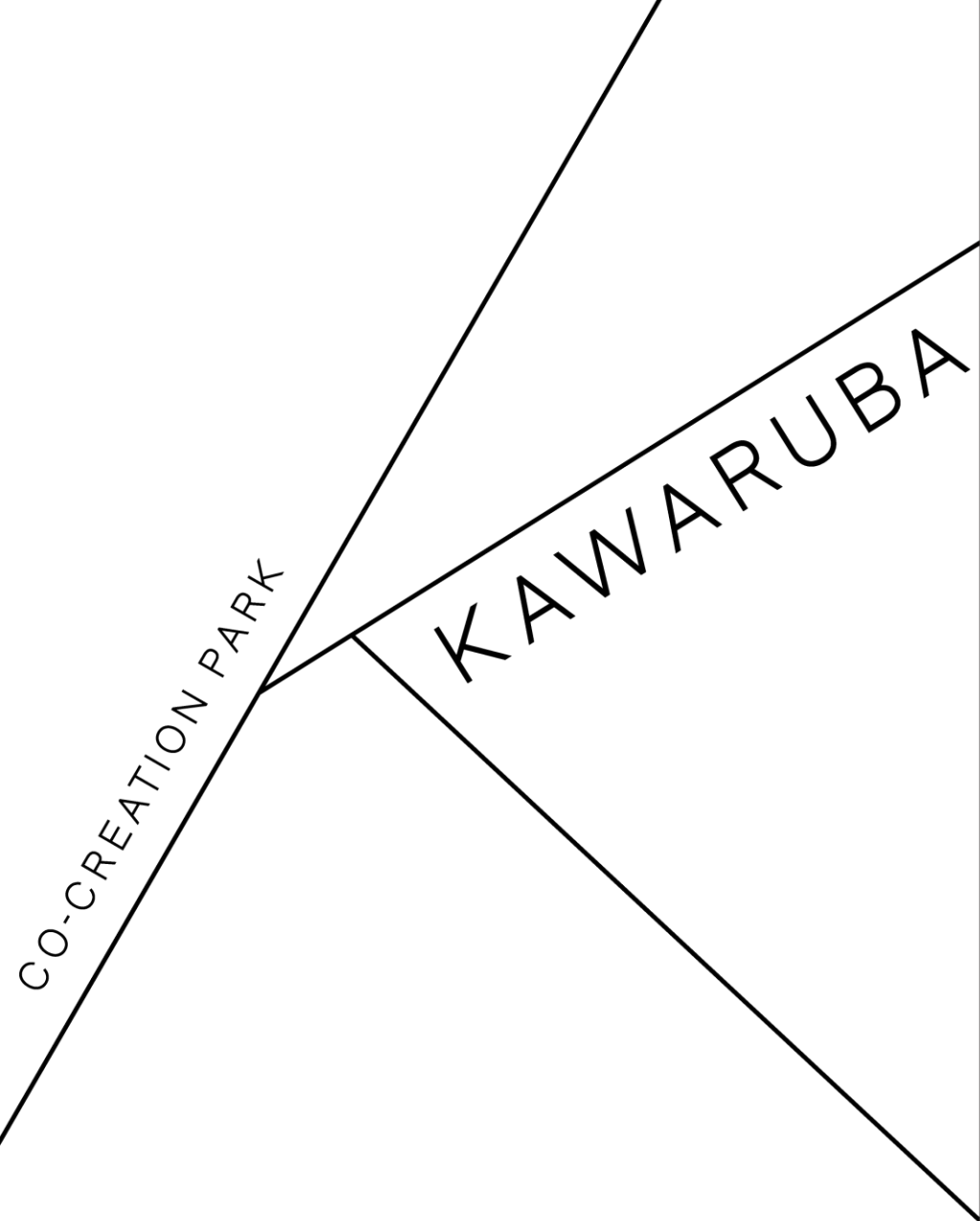
統合データ教育訓練基盤

- 訓練データ統合管理 (Training data integrated management)
- 共通訓練環境基盤 (Common training environment base)
- AIサポート (AI support)

「新しい戦い方」の実現④ KJエンジン

- 無人アセット向け**KJエンジン・シリーズ**の自社開発とラインアップ拡充を推進
- 国内で唯一、大電力を供給できる小型ターボファンエンジン





安全安心
リモート社会

近未来
モビリティ

エネルギー・環境
ソリューション

①

全社の重点投資方針

②

防衛事業

③

エネルギー事業

④

フィジカルAI

エネルギー事業をとりまく環境の変化

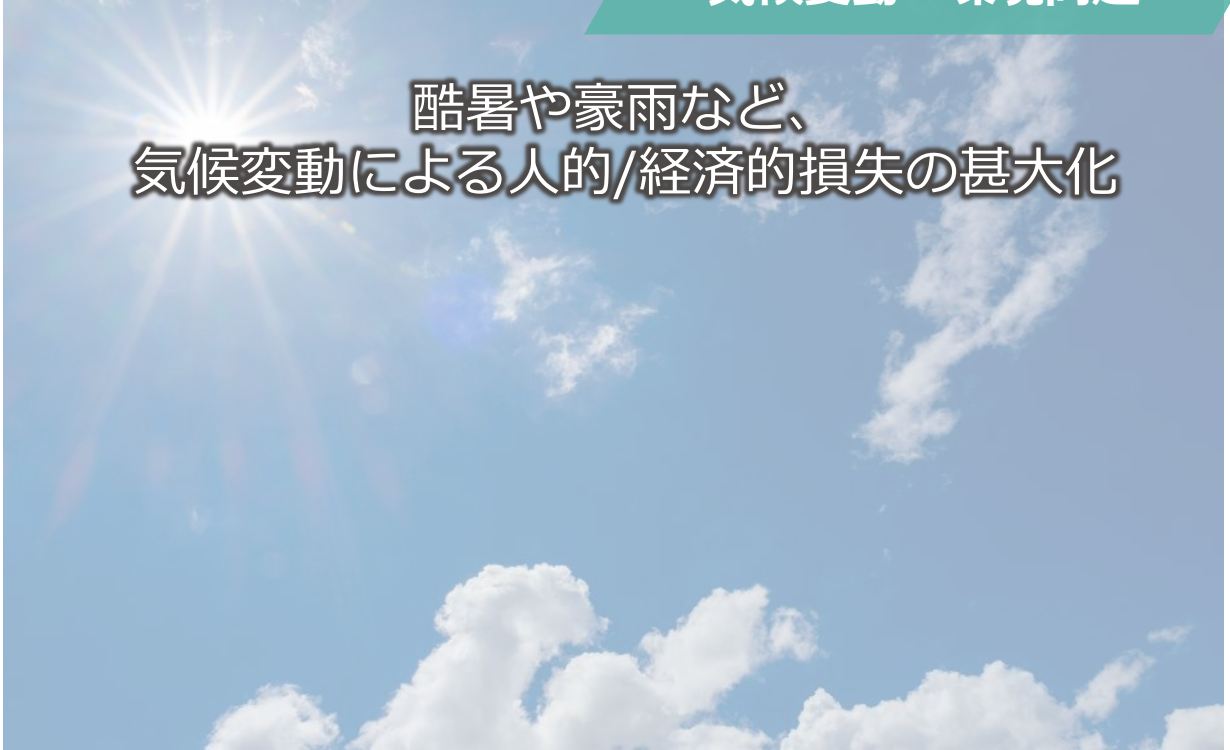
- 世界のエネルギーを取り巻く環境は、**AIの普及・高度化による電力需要増**、**地政学リスク等を背景としたエネルギー安定供給への課題**、**温暖化をうけた脱炭素化推進**と足元での**天然ガス回帰**など、ますます複雑化

電力需要増・安定供給



AIの普及・高度化に伴うデータセンター増、
経済発展等による電力需要増

気候変動・環境問題



酷暑や豪雨など、
気候変動による人的/経済的損失の甚大化

川崎重工のエネルギー・環境ソリューション

エネルギーに関連するさまざまな社会課題に対して、複合的なソリューションを提供

電力需要増・安定供給に貢献



ガスタービン



ガスエンジン



LNGタンク

エネルギー輸送に貢献

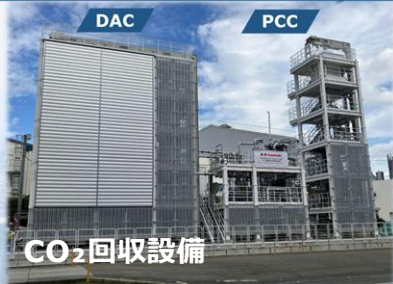


LPG/アンモニア船



液化水素運搬船

CO₂回収・利活用



CO₂回収設備

水素社会への移行をささえる



水素ガスタービン



水素ガスエンジン



舶用水素エンジン

水素エネルギーへの変革



水素受入基地

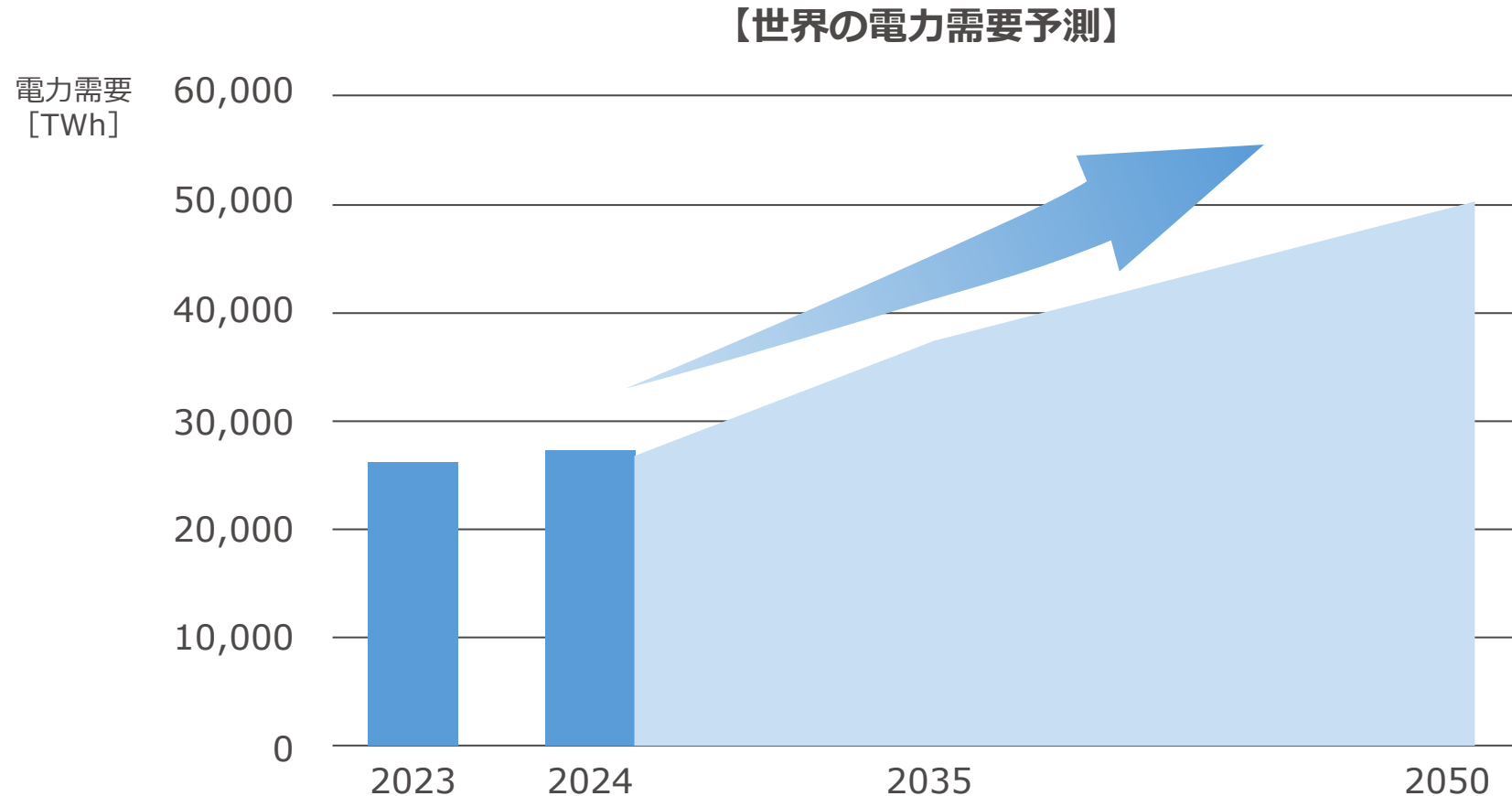


液化水素タンク

電力需要にこたえる

世界的に電力需要は増加傾向

- AI・データセンターの拡大や電化の進展、経済発展等により**世界的に電力需要が増加**
- **電力の安定供給が課題に**

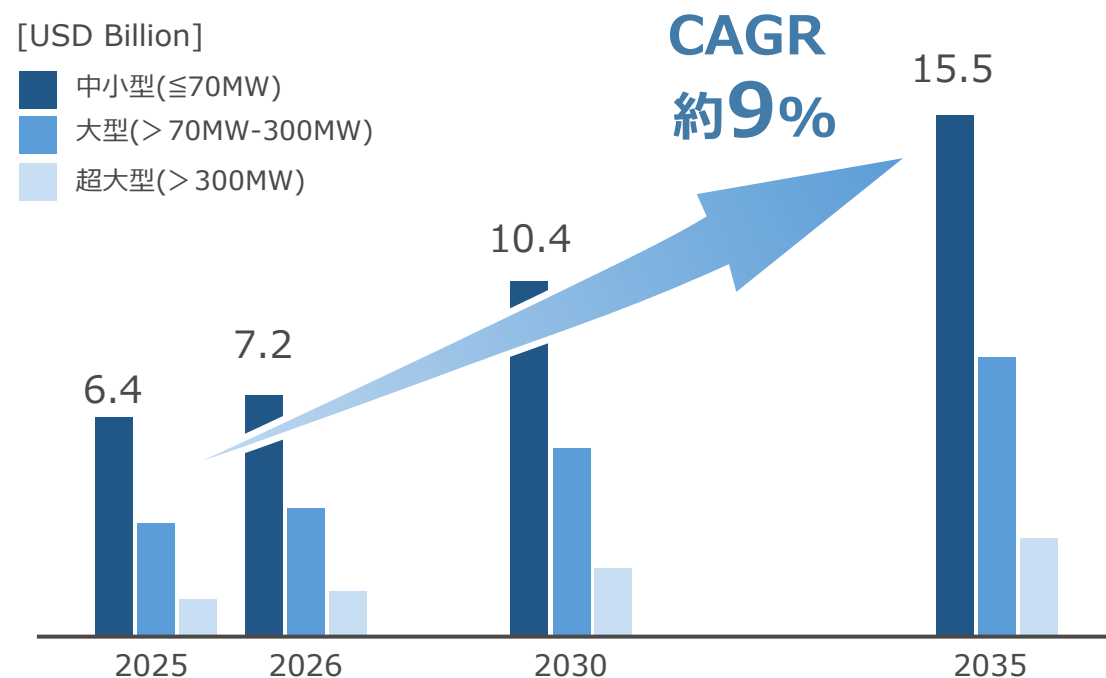


出典：International Energy Agency 『World Energy Outlook2025』

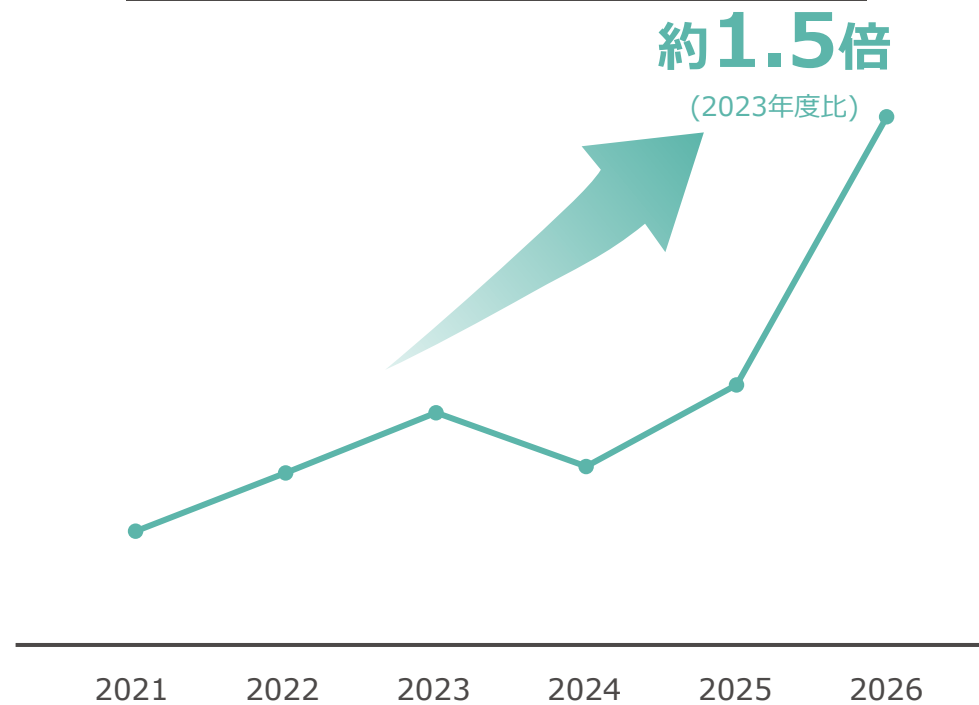
ガスタービンの需要増

- 電力需要の増加に伴い**ガスタービン需要も増加**
- 当社が得意としている**中小型ガスタービンのマーケットが大きく伸長**
(大型ガスタービンの製造キャパシティが逼迫し、中型ニーズが増加)

産業用ガスタービン市場予測



ガスタービン受注実績
(2026年度は見込み) *金額ベース



出典：産業用ガスタービン市場規模、シェアレポート 2026-2035

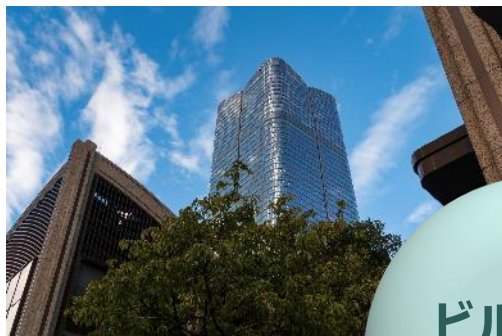
当社のターゲット市場

- 建物用非常用電源や分散型電源分野における当社中小型ガスタービンの優位性を活かし、
成長市場である世界のデータセンター向け市場に注力

これまでの主なターゲット市場

非常用発電

災害時等のバックアップ



分散型発電

工場等で熱電併給



ビル・病院
・工場等

+

今後特に注力する市場

データセンター

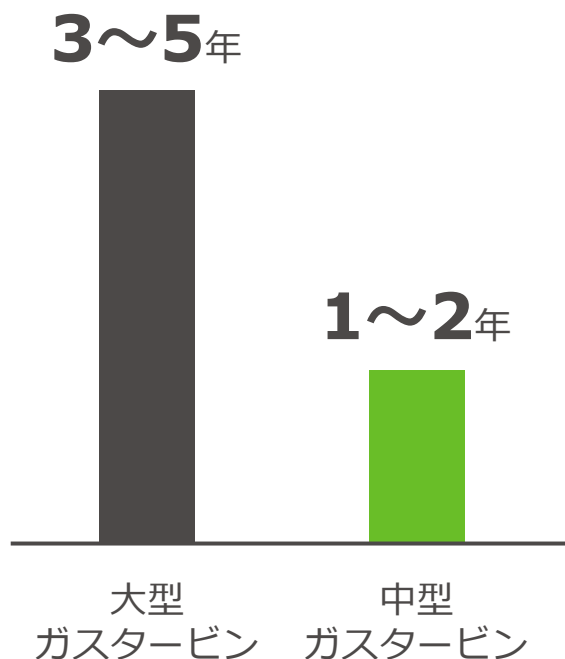


主に中型ガスタービン
(5MW以上)



データセンター市場における中型ガスタービンの強み

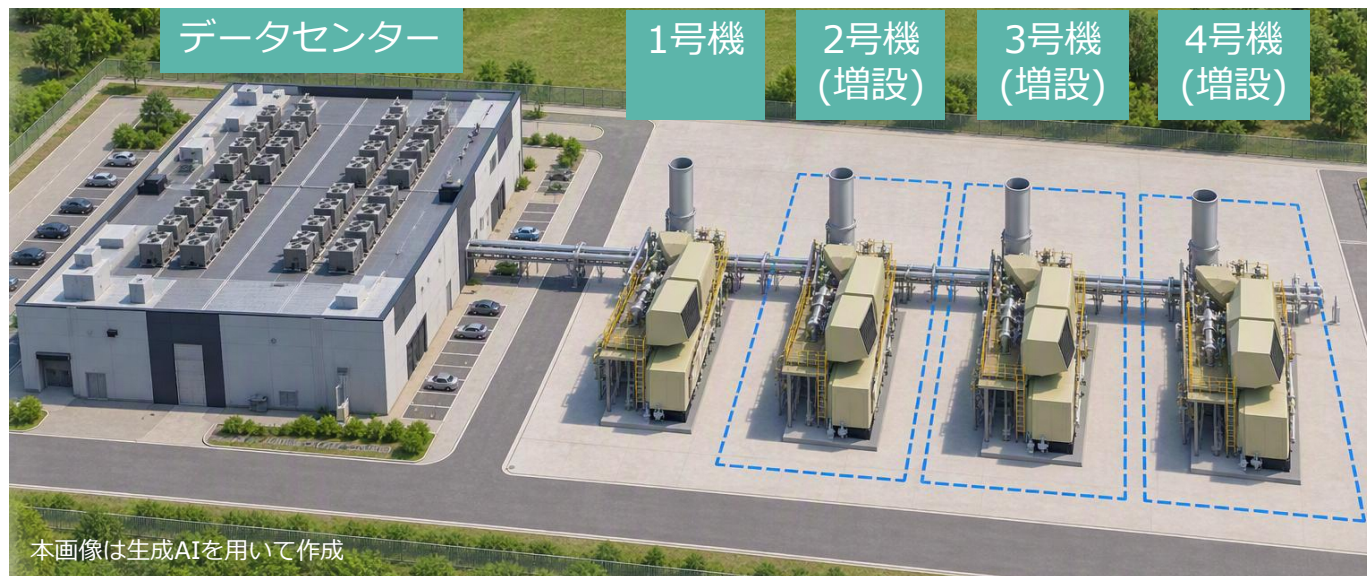
■ 運用開始までに要する期間



①運用開始までの期間が短く、急増する電力需要に対応可能

②データセンターは、クラウド需要の増加、GPU増設等の要因により電力の要求容量が変わることがある
中型ガスタービンは増設など柔軟に構成を変更可能

ガスタービン増設イメージ



本画像は生成AIを用いて作成

データセンター以外のターゲット市場

非常用(データセンター向け除く)

大規模再開発案件を含む
ビル・病院・公共施設向け

【現在の売上収益】

約 **200** 億円/年

※新規・アフター含む

安定

常用(分散型発電)

水素Ready※含むガス焚きコージェネ向け
(化学,食品,製紙工場等)

【現在の売上収益】

約 **300** 億円/年

※新規・アフター含む

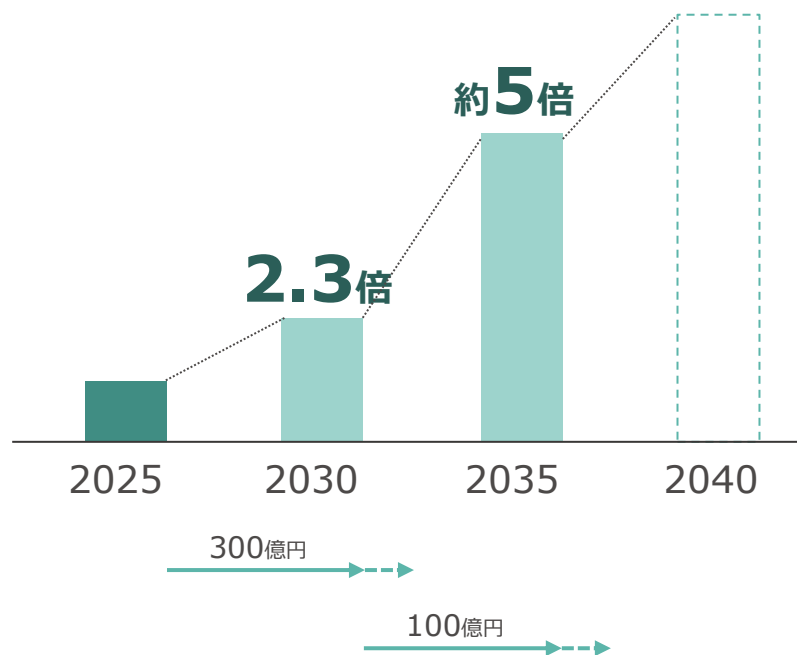
成長

※水素供給インフラが整備され次第、速やかに水素利用可能な状態

ガスタービンの生産能力増強

- 設備投資によりガスタービン生産能力を大幅に増強
- 2035年以降もマーケット状況により投資を判断

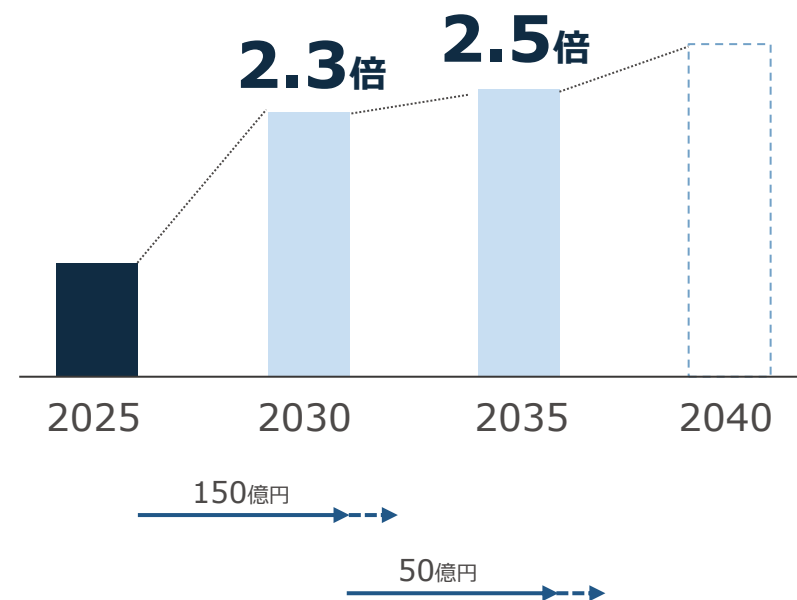
【中型ガスタービン(常用中心)の生産能力】



総投資額：約**400**億円

--- 継続投資効果

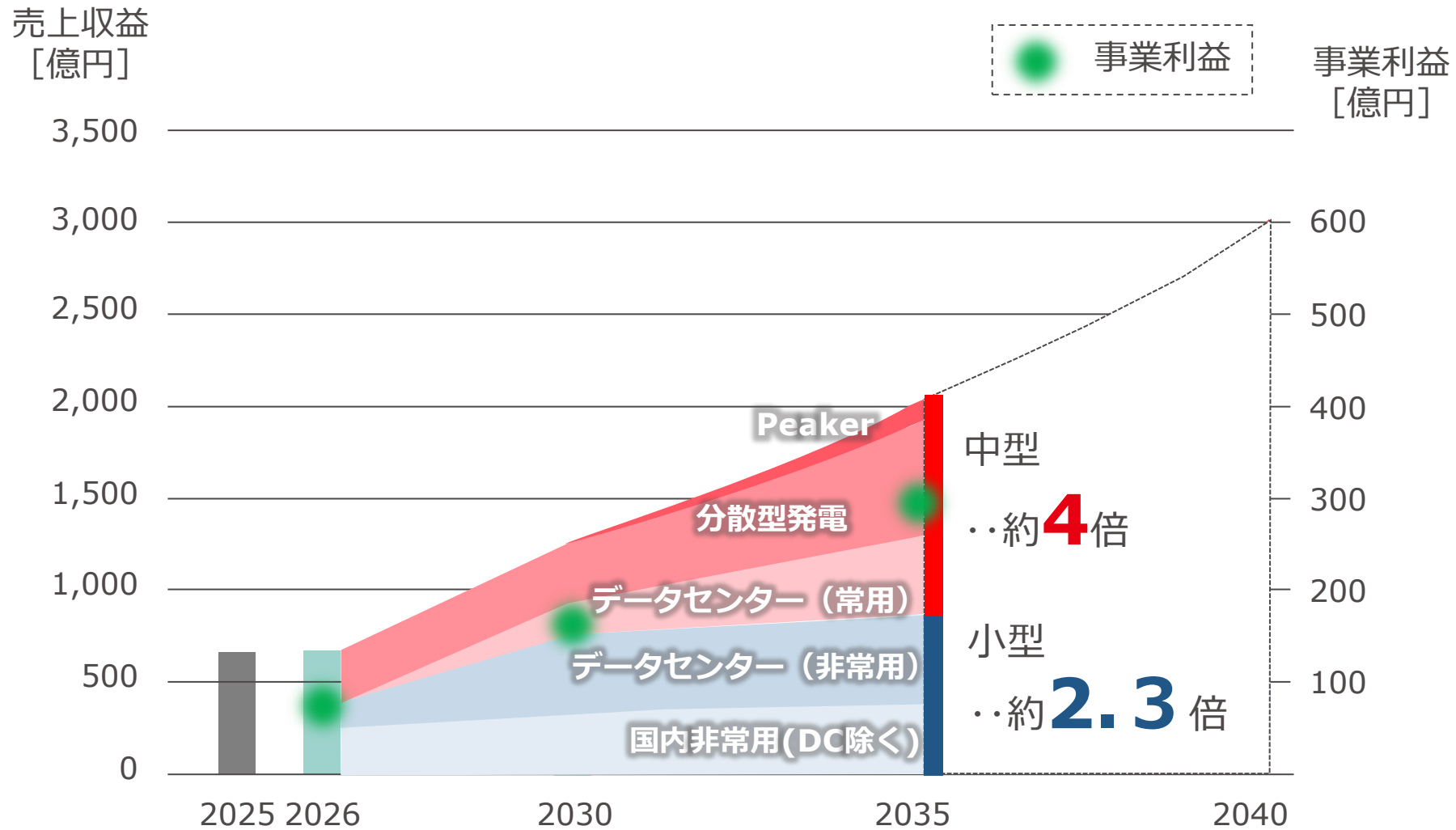
【小型ガスタービン(非常用中心)の生産能力】



総投資額：約**200**億円

--- 継続投資効果

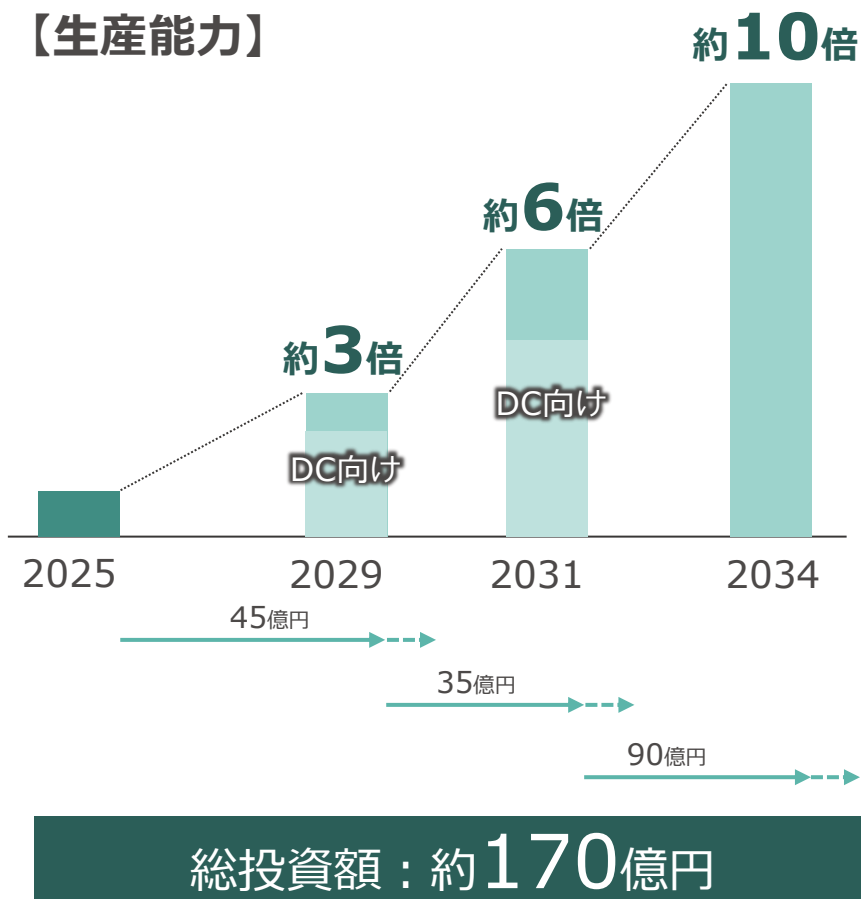
ガスタービン事業計画



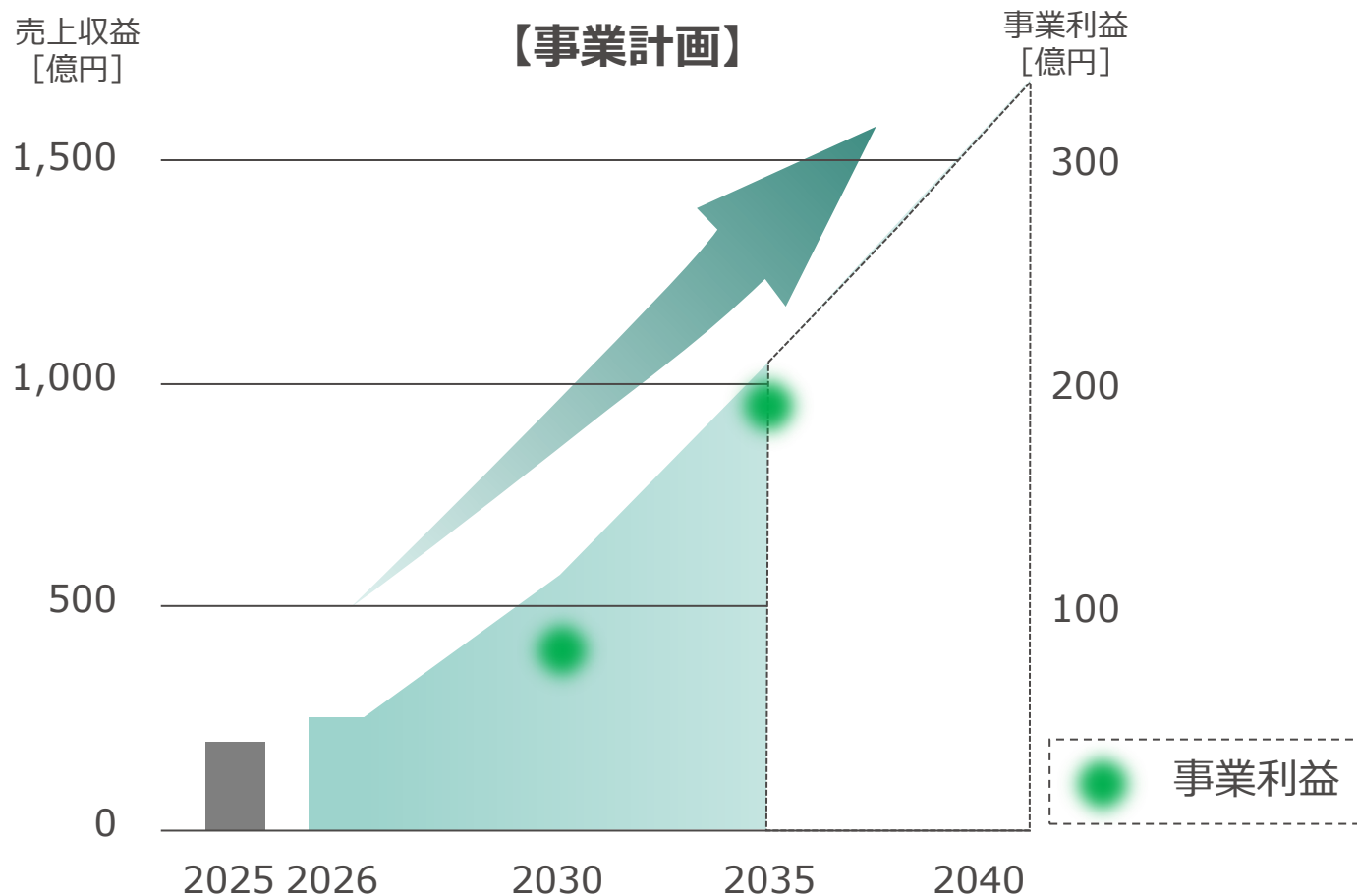
ガスエンジン

- データセンター向けでは**ガスエンジンの引合いも増加**
- 積極投資により**生産能力を約10倍**まで拡大、**海外データセンター案件に積極参入**

【生産能力】



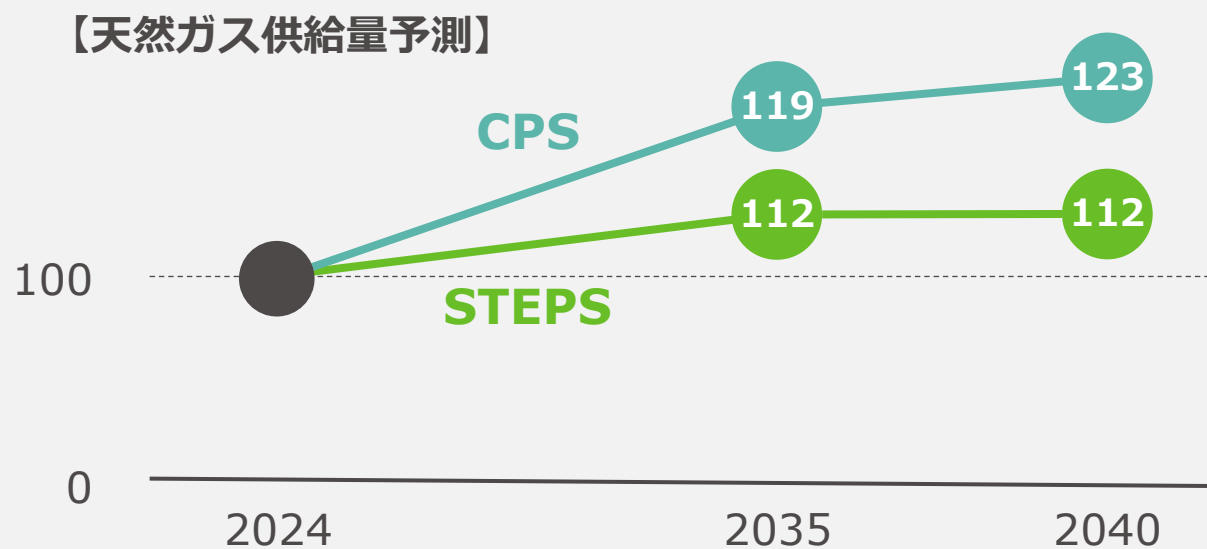
【事業計画】



カーボンニュートラルの 実現をささえる取組み

カーボンニュートラルまでのトランジション期間

■ 世界的な電力需要増と北米を中心とした天然ガスの生産・供給量の拡大



出典：International Energy Agency
『World Energy Outlook2025』 2024年の供給量を100として作成

CPS 現在実施中の政策のみ 考慮したシナリオ	天然ガス供給量は順次増大
STEPS 現在実施中の政策に加え、 正式に表明された政策を 考慮したシナリオ	天然ガス供給量は横ばい

カーボンニュートラルへ向かうまでのトランジション期間が長期化

エネルギー・環境ソリューションとして最適解を提供

現在（LNG）



ガスタービン



ガスエンジン



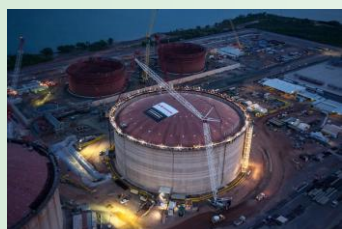
水素ガスタービン



舶用水素エンジン



液化水素タンク



LNGタンク



LPG/アンモニア運搬船



水素ガスエンジン



CO₂回収



液化水素運搬船

トランジション期

LNG製品、水素Ready製品、水素製品
全ラインナップを揃え、どの局面にも対応

液化水素運搬船を含む様々な液化ガス運搬船

LNG運搬船

国内建造再開に向けた
協議への参画
(国内造船各社との協業)



LPG/アンモニア運搬船

連続建造中
生産性向上策推進中



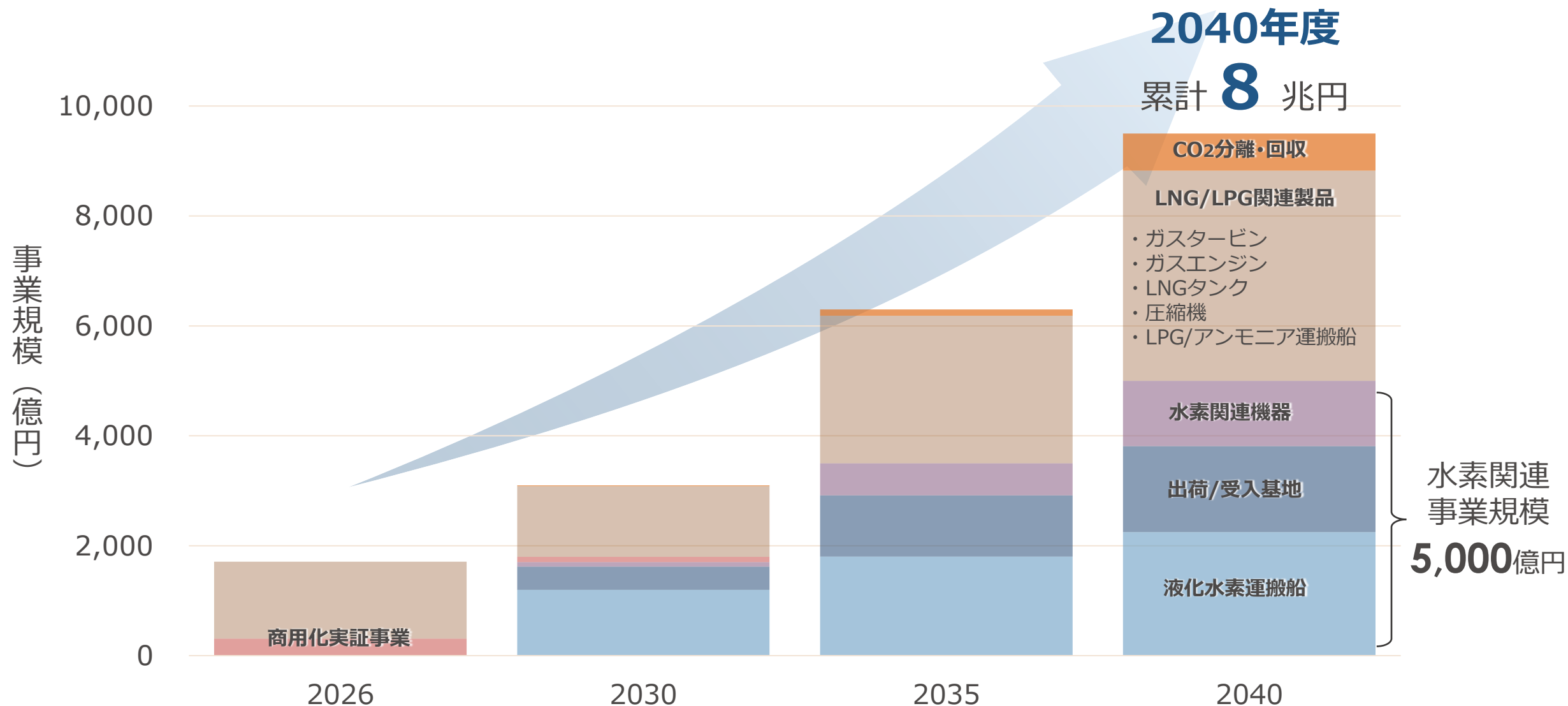
液化水素運搬船

商用化実証投入による
大量輸送技術立証
商用向け商談中



カーボンニュートラルや各種エネルギー需要等の**社会ニーズ**に応える**製品・サービス**を提供し、
エネルギー輸送に貢献

エネルギー・環境ソリューションの事業規模見通し



国内における水素の社会実装は着実に進展

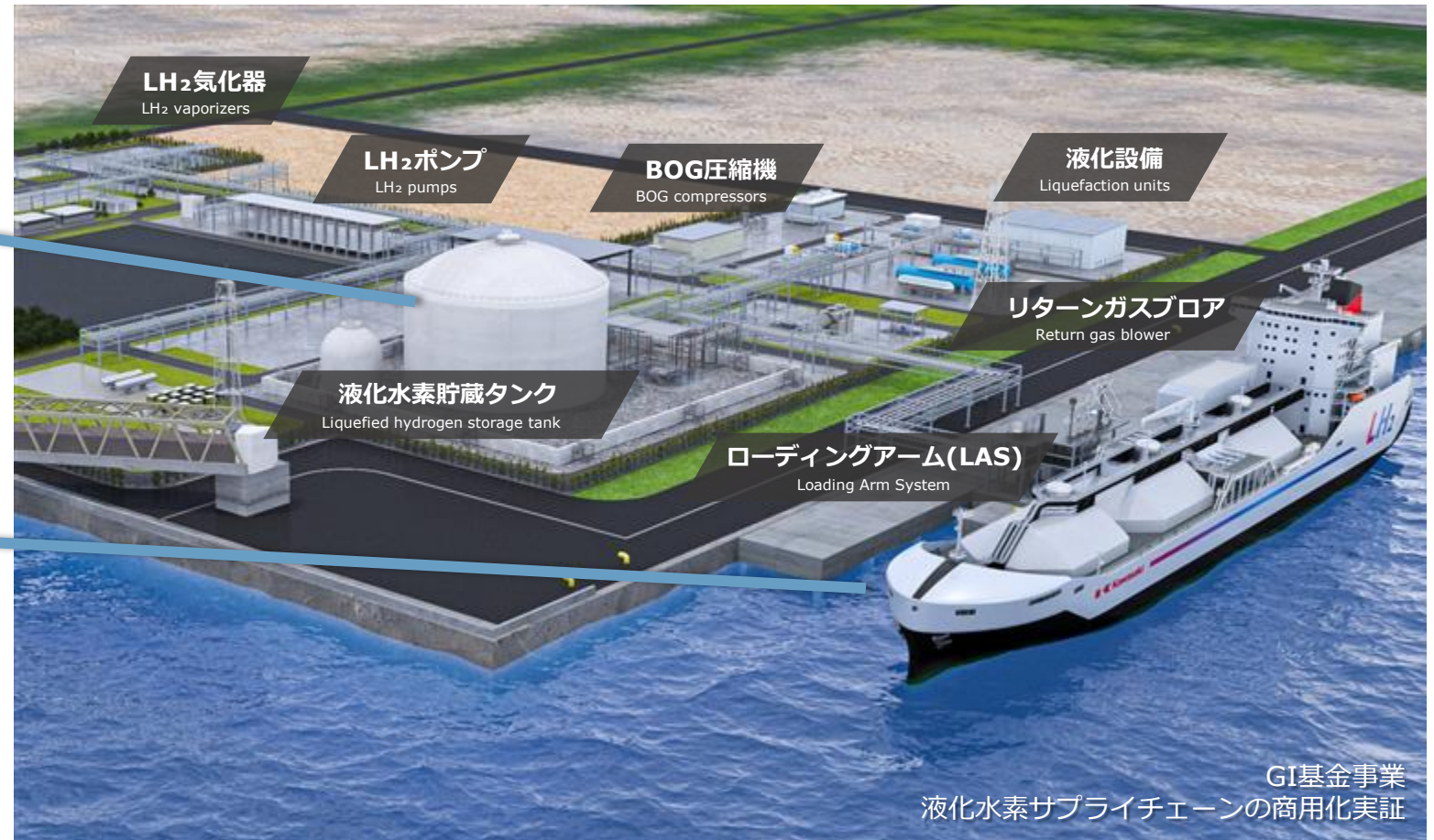
商用化実証の進捗

- 川崎市・扇島での商用化実証設備、液化水素運搬船を現在建造中

50,000m³液化水素貯蔵タンク



40,000m³液化水素運搬船



GI基金事業
液化水素サプライチェーンの商用化実証

官民連携による水素の社会実装を後押し

水素大動脈構想

- 「川崎LH₂ターミナル」を起点に水素大動脈の実現を目指す



水素大動脈に寄与する当社製品

内航船輸送



すいそ
ふろんていあ

陸路輸送



液化水素コンテナ

鉄道輸送



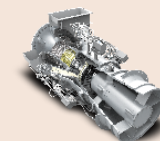
鉄道用水素コンテナ

水素ステーション利用



油圧ブースタ式
水素圧縮機

発電利用



水素混焼／専焼
ガスタービン



水素混焼／専焼
ガスエンジン

鉄道利用



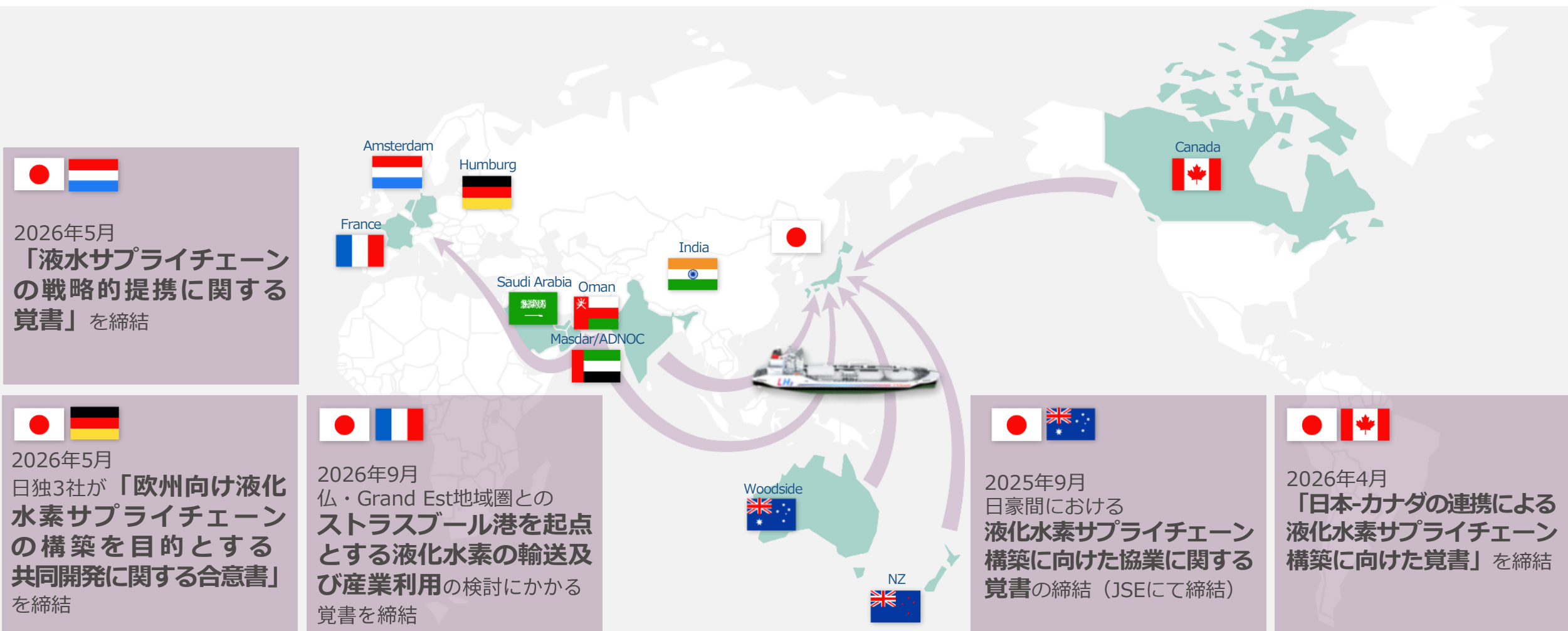
電気式気動車
「GreenDEC」

パイプライン輸送



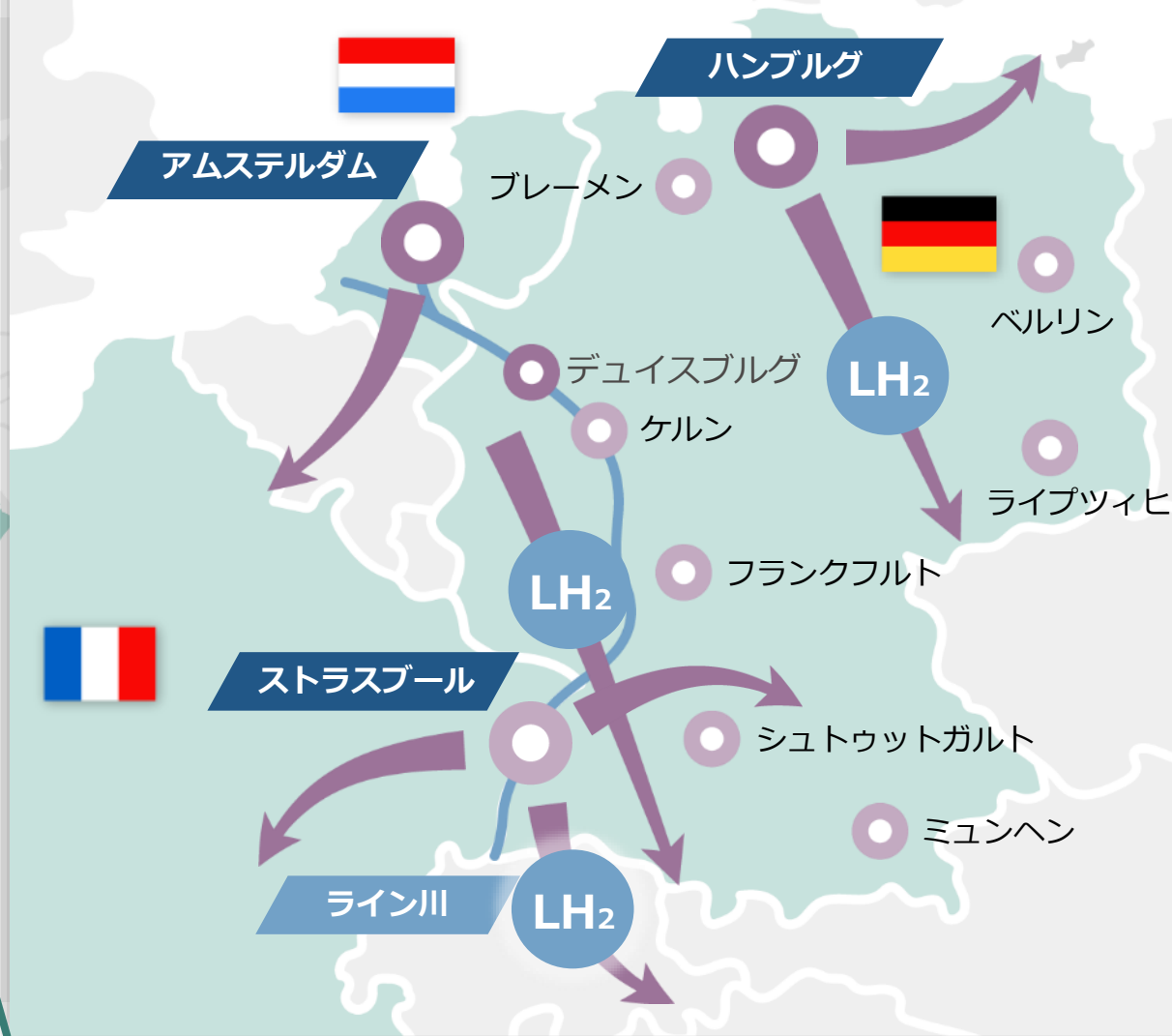
遠心式水素圧縮機
「KM-Comp」

国際水素サプライチェーン構築に向けた各国との動き



国際水素サ

- LH₂受け入れ基地
- LH₂充填拠点



ドイツ・ハンブルグ港、
オランダ・アムステルダム港を
起点に欧州水素回廊を構築

さらに

フランス・ストラスブール港を
経由し欧州内陸部への供給網の
展開を目指す

「つくる・はこぶ・ためる・つかう」で見る海外との連携

つくる



加・Alberta州 Edmonton地域との 連携



日-カナダ間における水素製造・輸出に
関する可能性検討



豪・Woodside Energy社 との連携

日豪間液化水素サプライチェーン構
築に向けた協業（JSEにて締結）



はこぶ



仏・Grand Est地域圏 との連携



ストラスブール港を起点とする液
化水素の輸送及び産業利用の検討



蘭・EcoLog社との 連携



アムステルダム港で開発を進める液
化水素回廊の中流領域における連携



独・DaimlerTruck社・ MBEnergy社との連携

ハンブルグ港を経由した欧州向け
液化水素サプライチェーン構築



ためる

つかう



独・RWE社における 水素ガスタービン導入



NEWS 2026年9月22日 Bosch Rexroth との協業

Bosch Rexroth社と油圧機器、水素ソリューションに関する契約を締結

ボッシュ・レックスロスと建設機械分野での
技術協業に関する基本合意を締結

～将来の建設現場に向けた革新的な技術ポートフォリオ
の拡充、水素社会の実現に向けた取り組みを加速～

2026年09月24日



*Bosch Rexroth
あらゆる規模の機械やシステムの効率性、
動力性能、安全性を担保し、
油圧システムや電気駆動技術などを有する駆動
及び制御技術のリーディングサプライヤー
[Bosch Rexroth. WE MOVE. YOU WIN.](#)

カーボンニュートラル社会実現に向け 重要となるCO₂回収・利活用

DAC

大気からCO₂を回収

PCC

工場内ガスエンジンの
排ガスからCO₂を回収



カーボンニュートラル社会実現に向け 重要となるCO₂回収・利活用



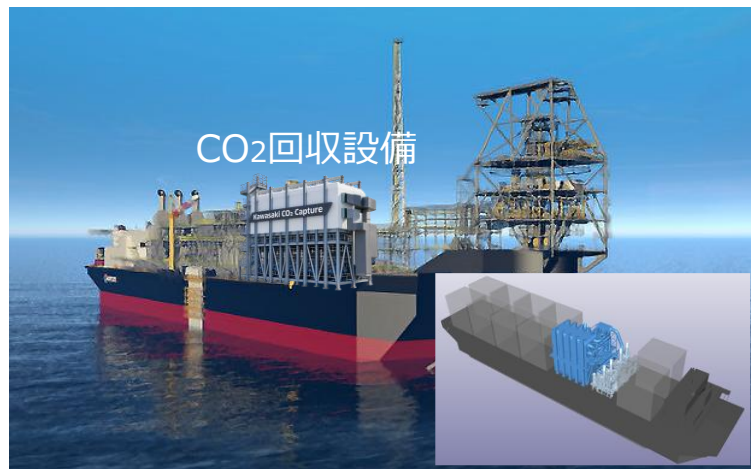
CO₂回収事業化に向けた進展

CO₂回収の社会実装に不可欠な、回収・貯留パートナーとの連携を着実に推進

回収
貯留

三井海洋開発(MODEC)

FPSO*設備でのCO₂回収設備の共同開発



FPSOにCO₂回収設備を搭載したイメージ

FS

大規模CO₂回収のFS実施済

FEED・EPC

FEED/EPCについて今後協議

回収

JERA

横須賀火力発電所でのCO₂回収実証



FS

CO₂回収適用に向けた実証機のFSを実施中。
2030年度までに実証機設置予定。

貯留

PETRONAS

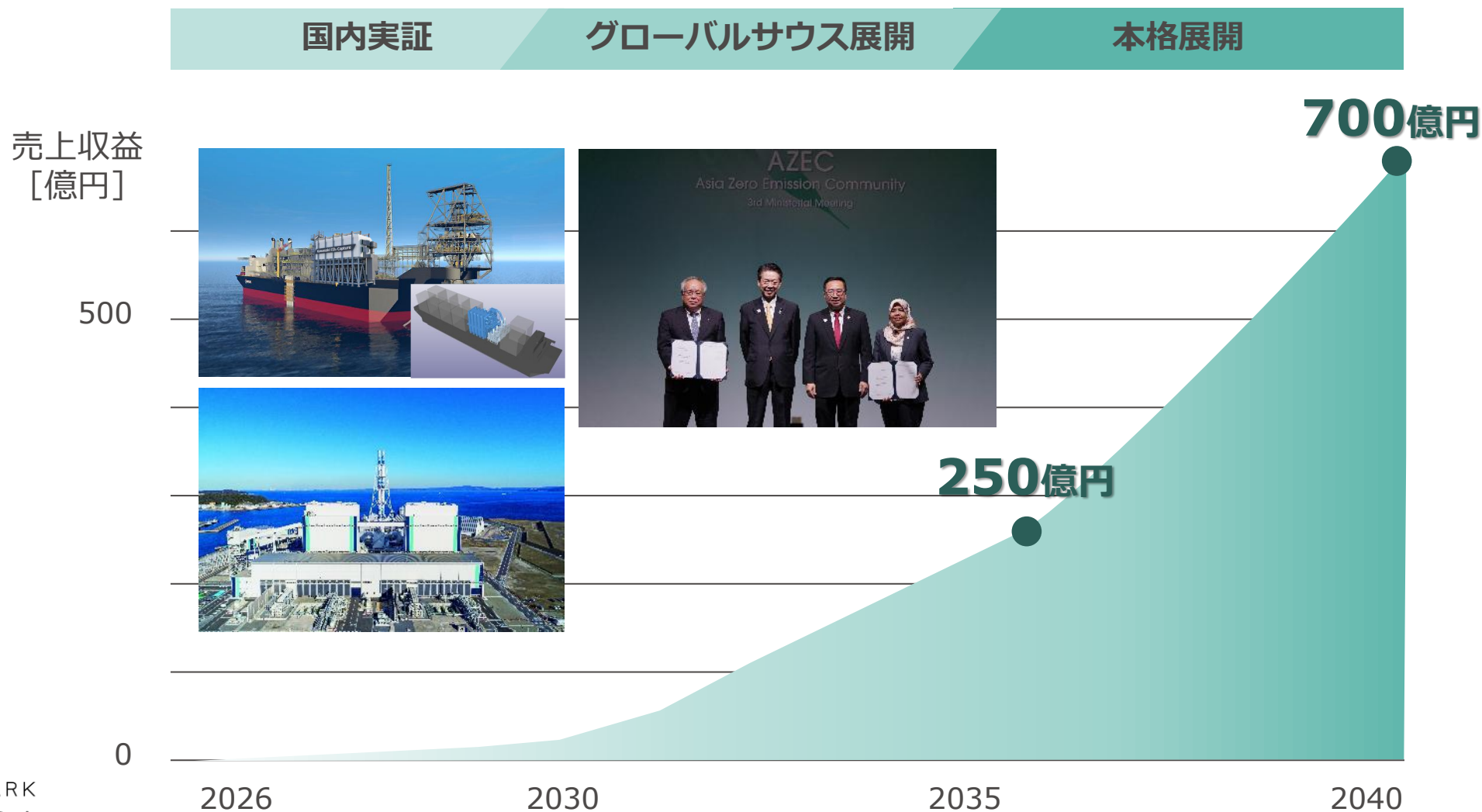


*2025年10月AZEC閣僚会合(@クアラルンプール)でのMOUセレモニー

経済産業省グローバルサウス事業/マレーシア
における産業排出源へのCO₂回収設備適用について
FS実施に関するMOUを2025年10月に締結
事業性調査（グローバルサウスFS）を推進

CO₂回収の事業計画

■ 国内実証から、貯留可能な地域における展開を進め、2035年以降本格展開を見込む



S + 3Eとしての水素・CO₂の重要性

Safety

+

Energy security · Economic efficiency · Environment

世界中のあらゆる場所から調達

燃料利用・製品原料への転換



再生可能エネルギー



天然ガス



水力・原子力

国内のエネルギー源から製造でき、
燃料や石油関連製品へ転換できる

H₂



利用

H₂

CO₂

合成



変換

発電燃料



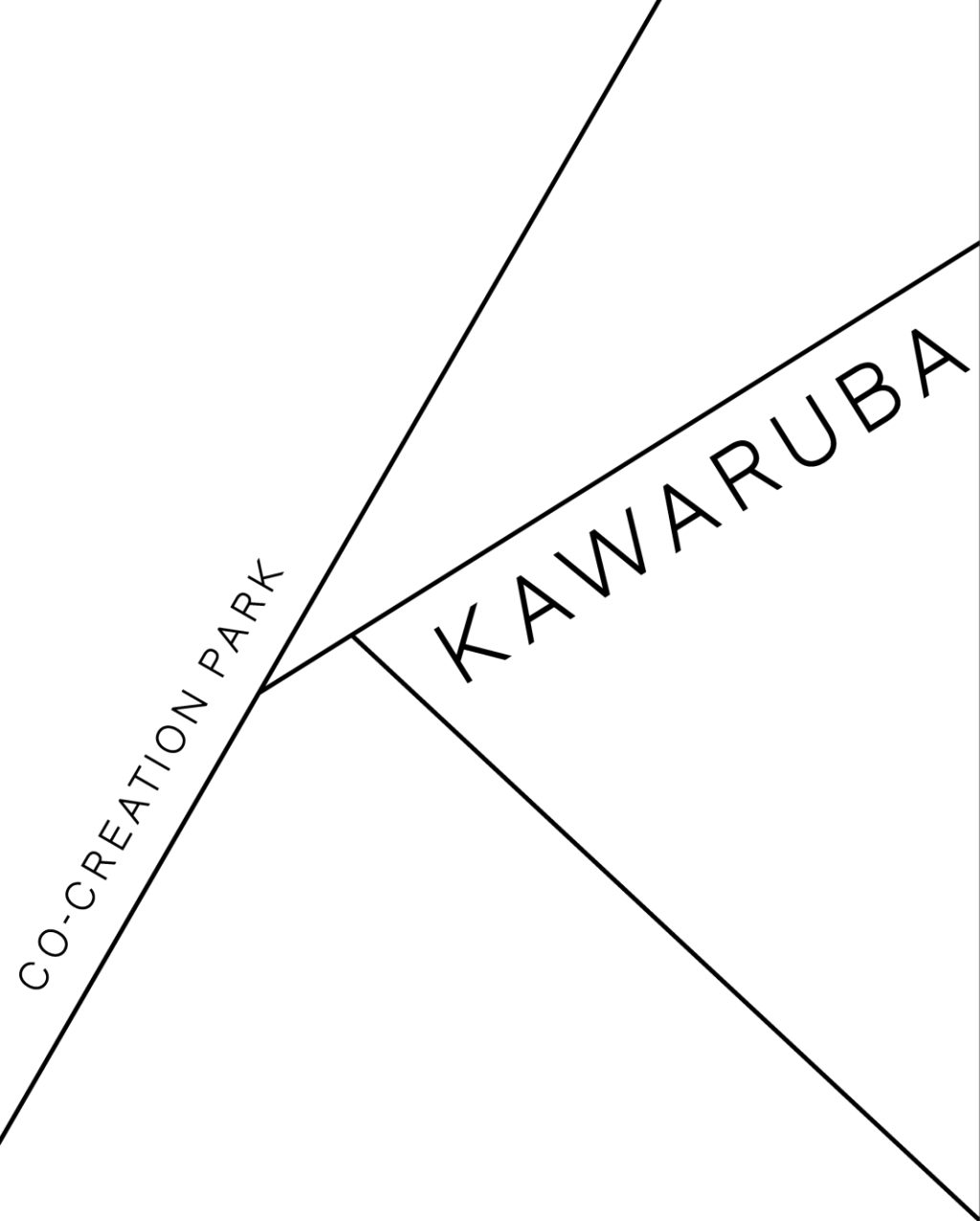
発電用 水素ガスタービン/ガスエンジン

ガソリン



当社がトルクメニスタンで建設した
Gas to Gasonlineプラント 生産量：60万ton/年

ナフサ/ジェット燃料 他
(e-fuel、SAF含む)



①

全社の重点投資方針

②

防衛事業

③

エネルギー事業

④

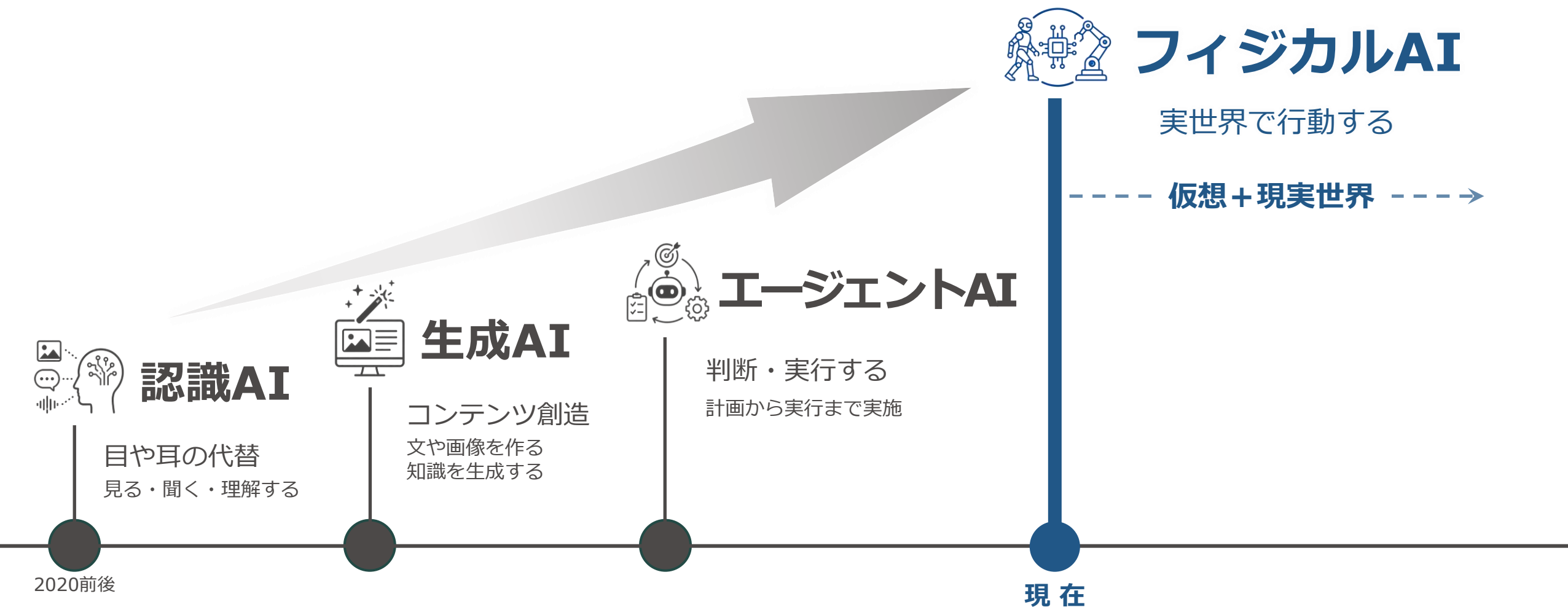
フィジカルAI

安全安心
リモート社会

近未来
モビリティ

エネルギー・環境
ソリューション

AIは発展し、フィジカルAIが登場



AIは発展し、フィジカルAIが登場



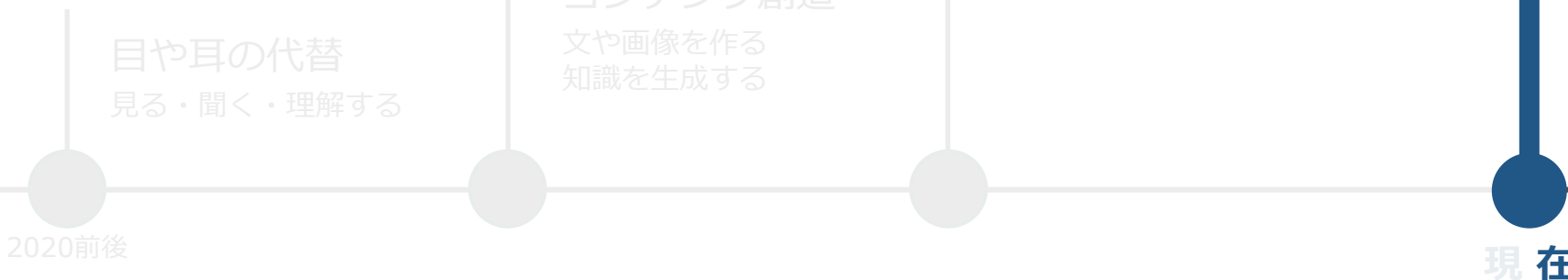
フィジカルAI

実世界で行動する

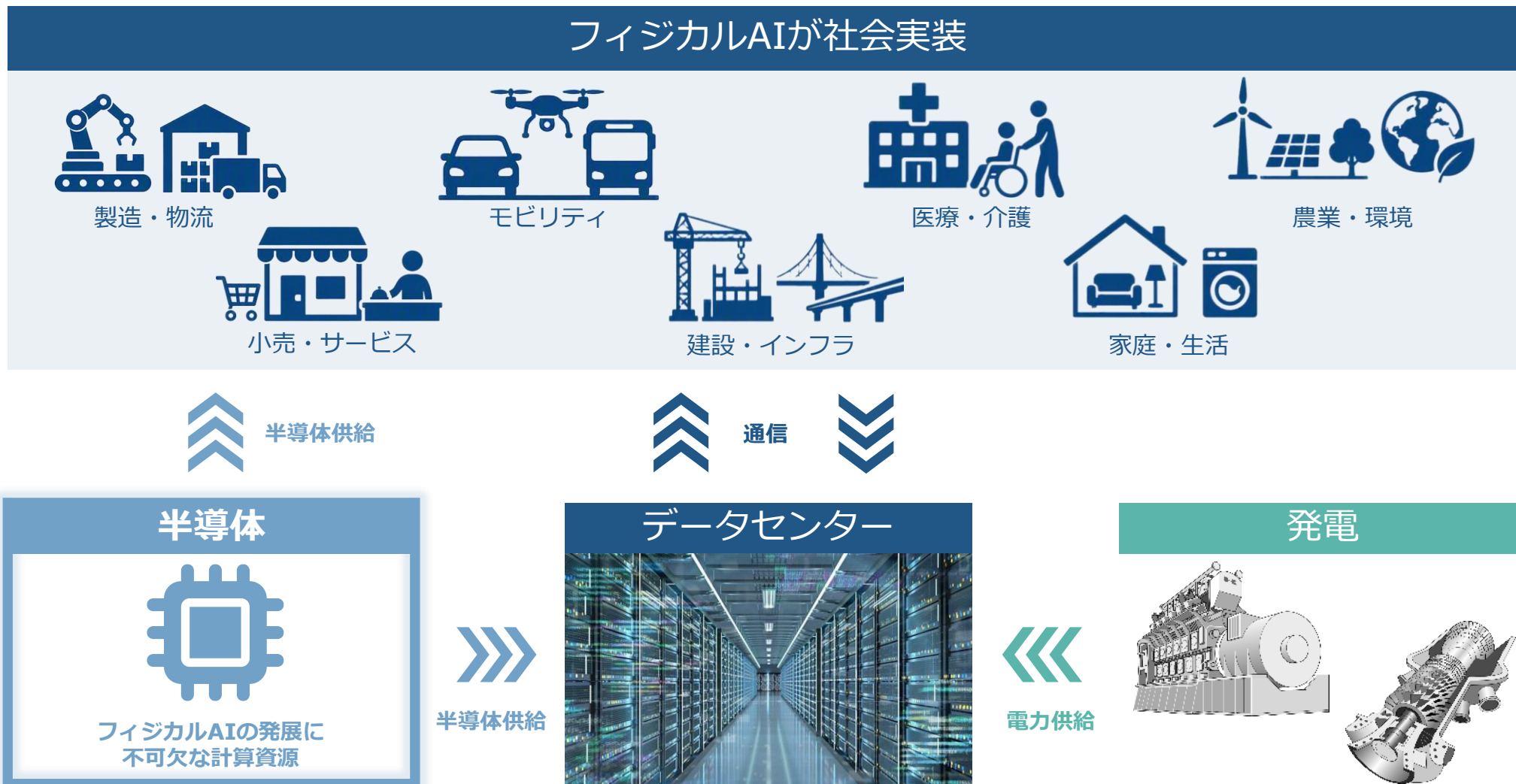
----- 仮想 + 現実世界 ----->

現場のあらゆる社会課題を解決する
ツールの1つとして期待

そして今もAIは加速度的に発展を続けている



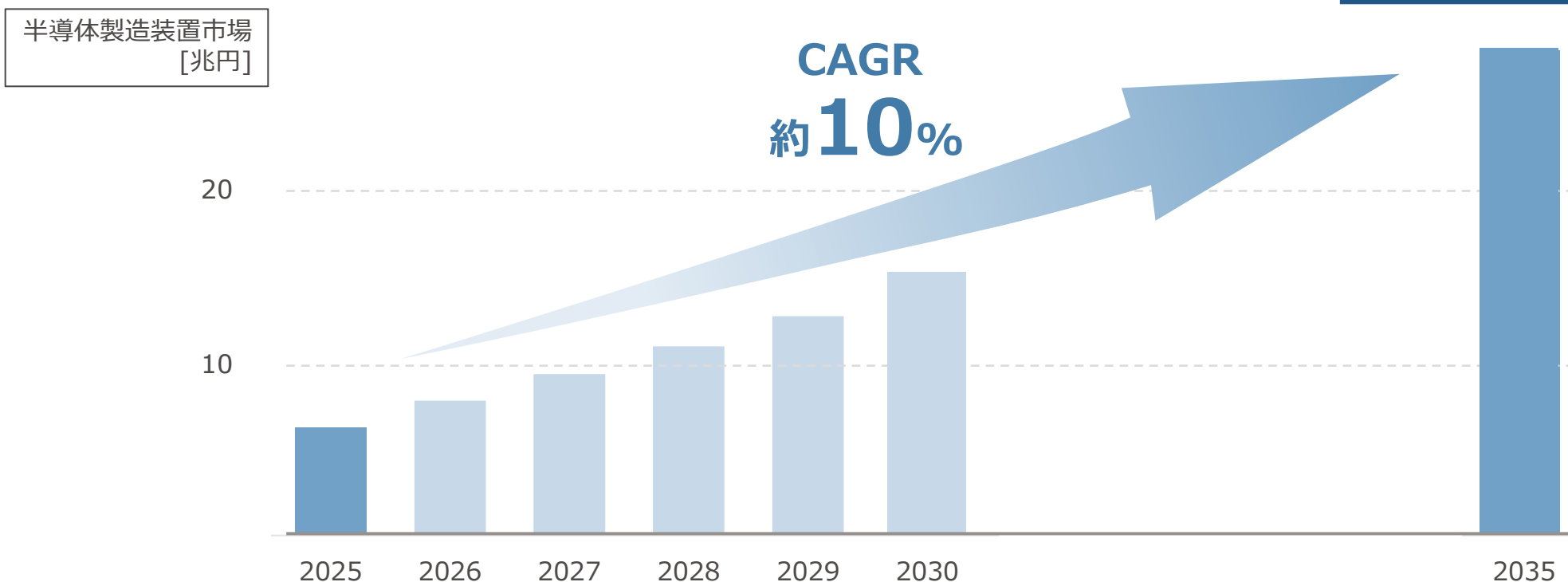
フィジカルAIの発展には半導体・発電の発展も重要



半導体製造装置市場

- 半導体製造装置市場は
2026年以降も、約**10%**/年で成長見込み

主要顧客のCAGR
約**14%**

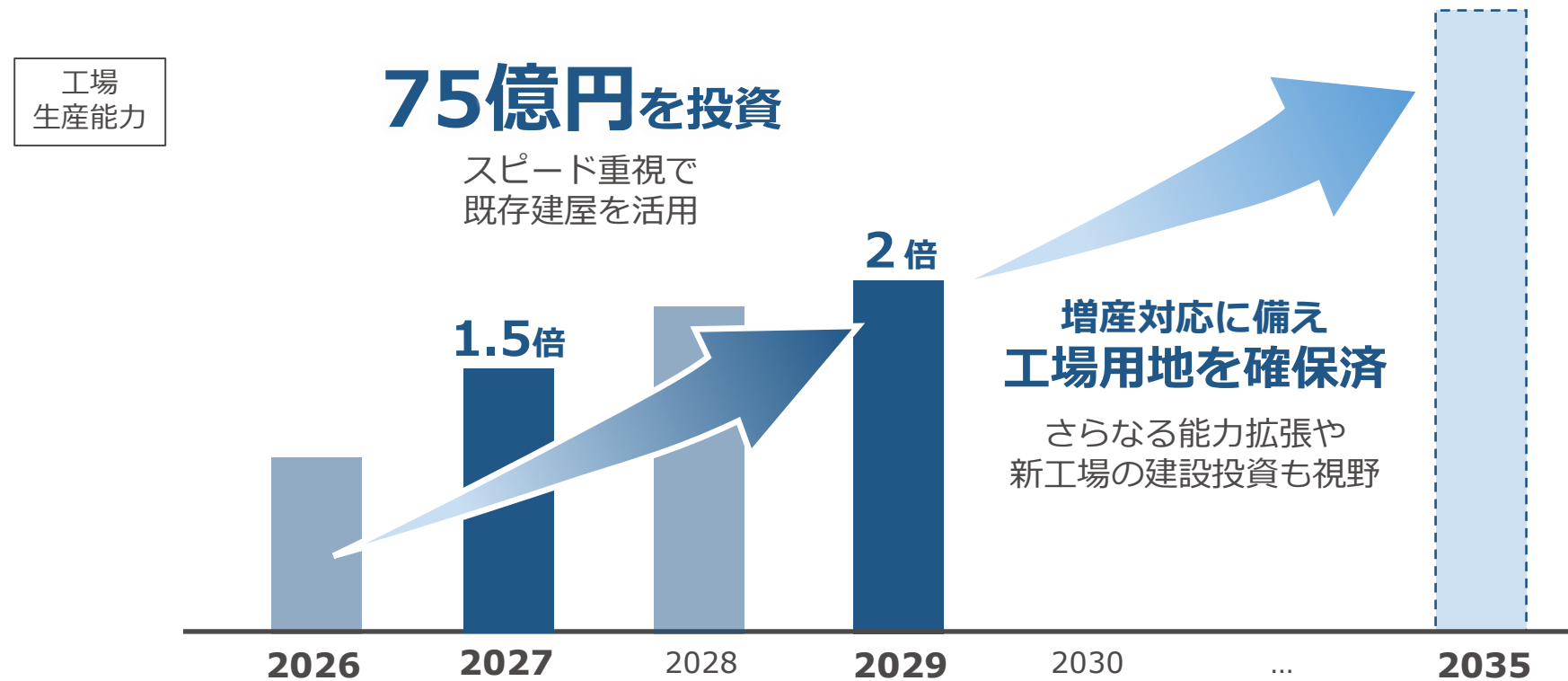


*CAGR：年平均成長率

出典：世界半導体製造装置・試験/検査装置市場年間2026(グローバルネット株式会社)より当社作成

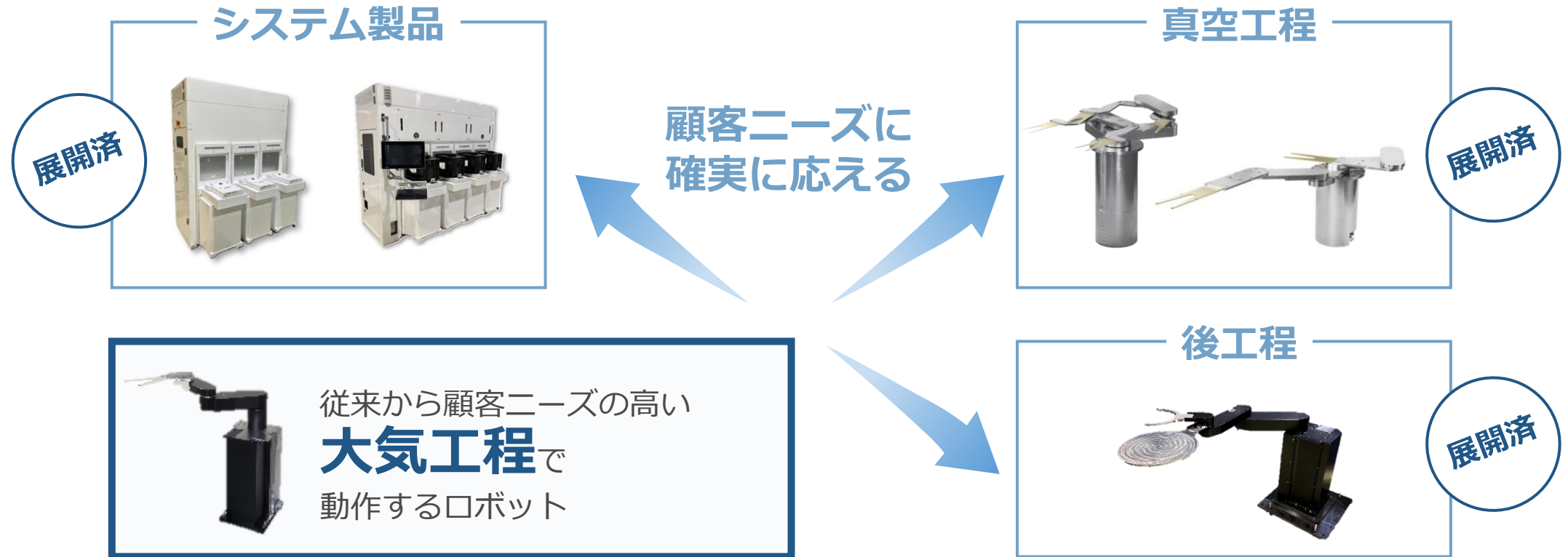
半導体用ロボット事業への投資

- 需要の増加・成長が見込まれる半導体用ロボット市場において、**75億円**を投資
- 2029年度までに**生産能力を2倍**へ増強、需要動向に柔軟に対応



半導体用ロボット量産によるさらなる拡大

- 従来からニーズの高い**大気工程のシェア拡大**に加え、
後工程・真空工程・システム製品への展開をさらに拡大し、確実に収益を拡大



半導体産業の抱える課題

- 半導体産業は市場成長が見込まれる一方で、“人手不足”も大きな課題に



出典：我が国の半導体関連産業の人材動向(経済産業省)
The Semiconductor Talent Crisis: Why Growing Demand Can't Find Leaders(SEMI)

カセット搬送

ヒューマノイド
の適用イメージ

2026/10/04
日本経済新聞社 記事掲載



パッド交換

産業用ロボット
の適用イメージ



半導体工場におけるフィジカルAI活用

顧客ニーズに応じ、ヒューマノイド・産業用ロボットの両面から対応

チャンバークリーニング

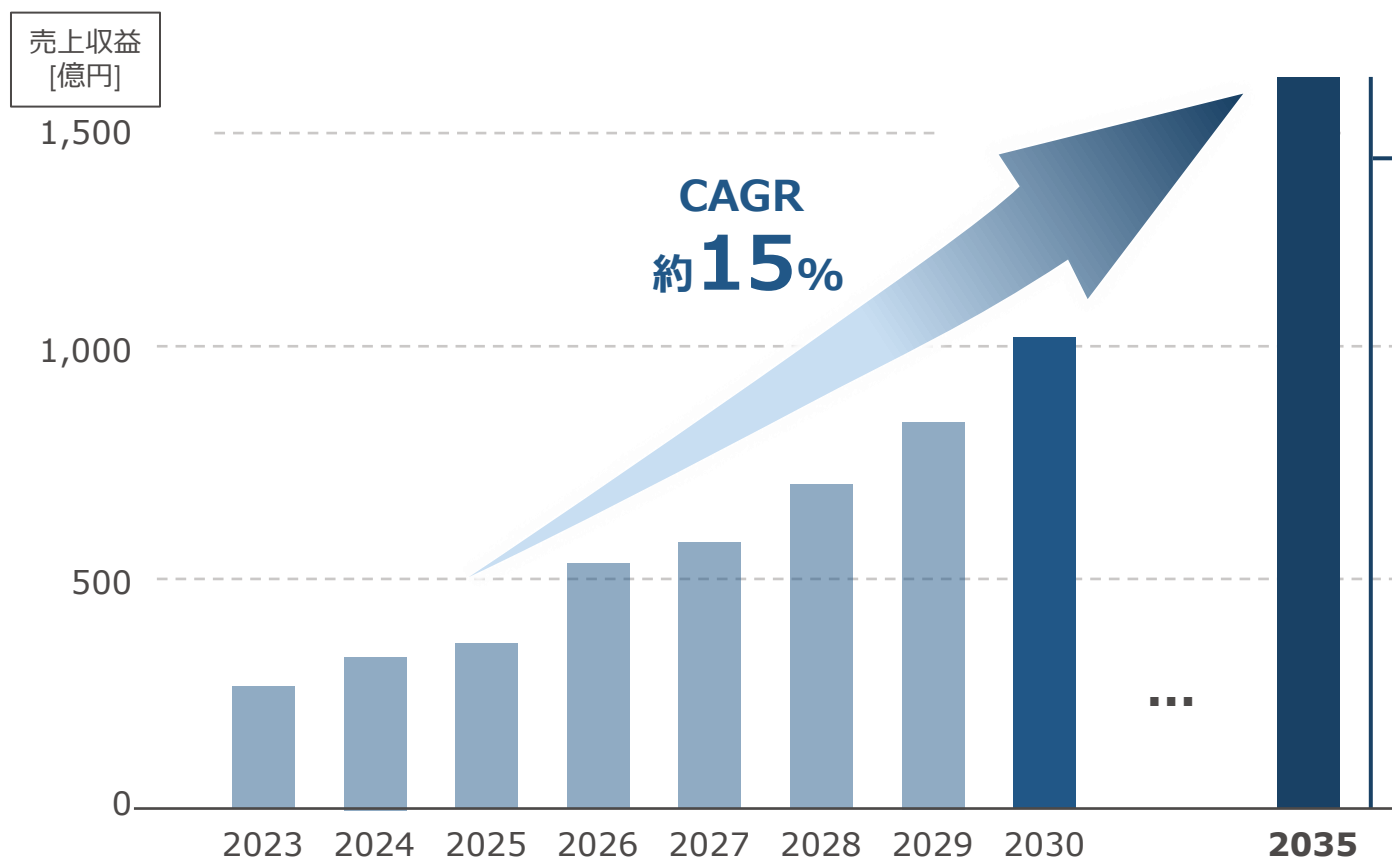


薬液ボトル交換



半導体用ロボット事業の見通し

- 生産能力拡大により需要を確実に取り込み、**早期の収益確保と事業成長を両立**
- 中期的にもCAGR**15%**規模で確実に成長、2035年に売上**1,600億円規模**を実現する



半導体用ロボット **1,600億円**

- 展開済みラインナップの規模を拡大



- フィジカルAI活用による半導体工場の自動化

*CAGR : 年平均成長率

フィジカルAIによる変革

- 各種製品のフィジカルAI化による迅速なソリューション提供に加え
ものづくりの変革 と **くらしの変革** を実現



+



ものづくりの変革



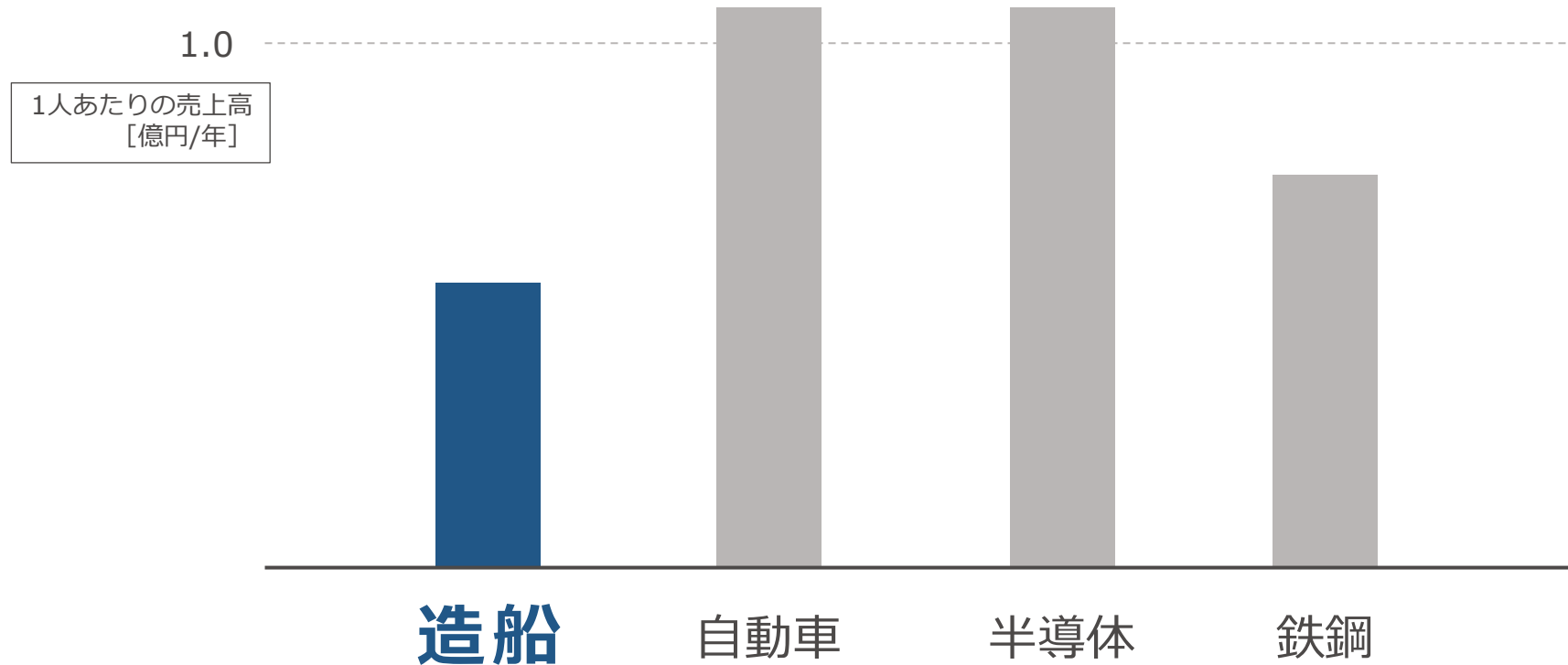
複雑で、タフな現場環境

～造船～

経済安全保障の観点から注目を集める

造船を取り巻く環境

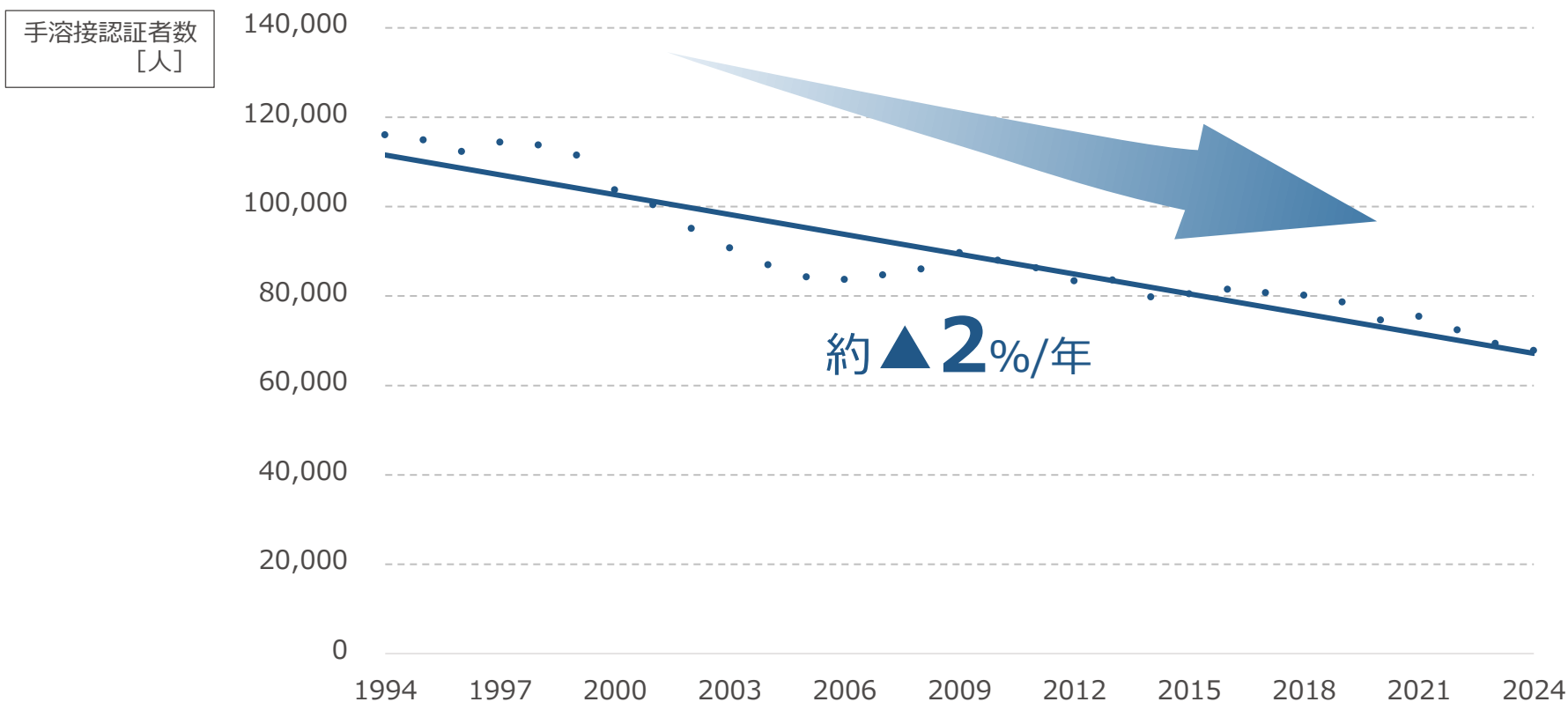
- 造船業は1人あたりの売上高が他の製造業と比べて低く **労働集約型の産業**
- 船舶建造には多数の技術者・技能者が必要であり人手に依存している状況



出典：業界各社の情報をもとに当社作成

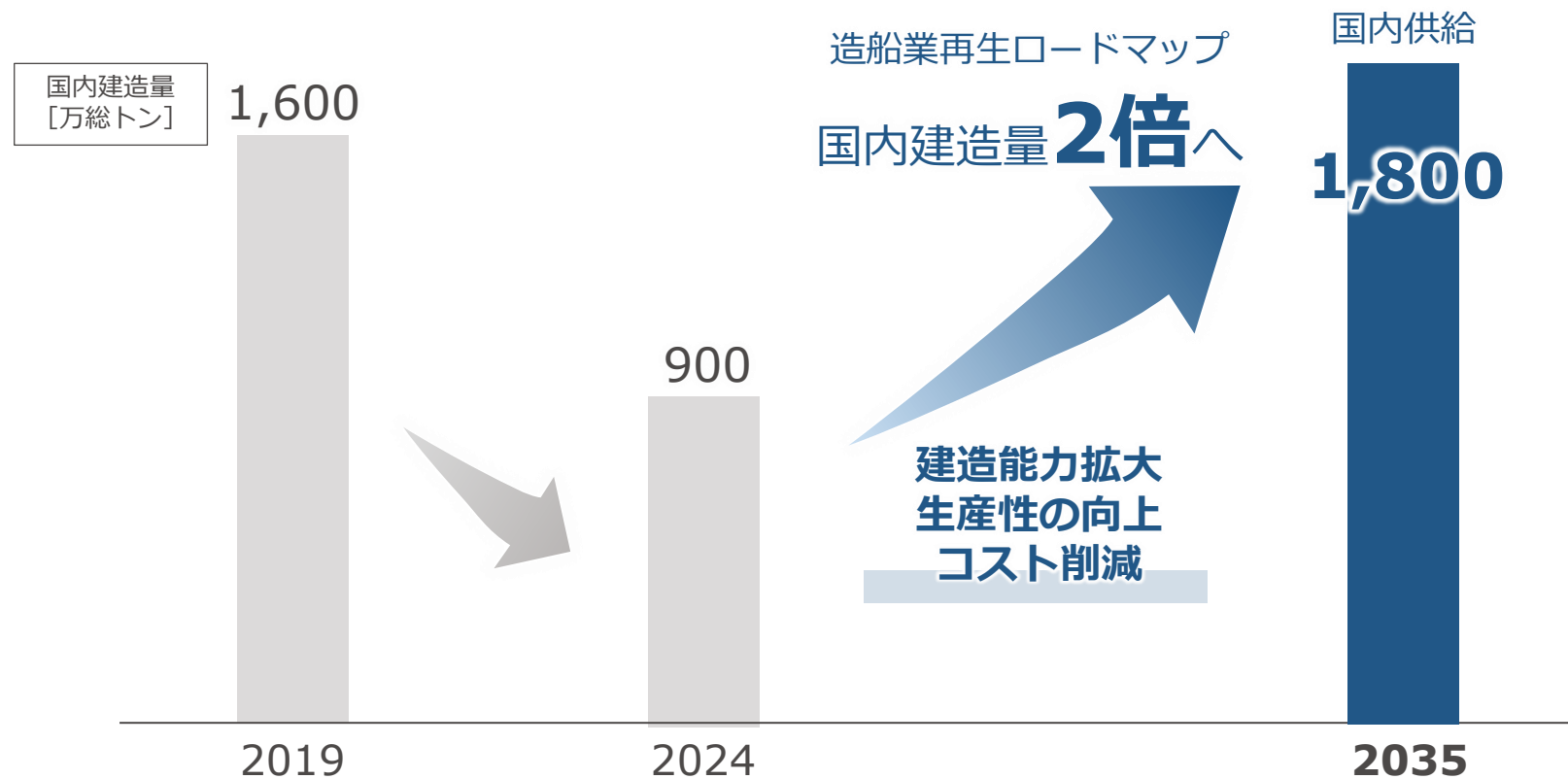
造船を取り巻く環境

- 造船業等に従事する日本就労者数は、中期的に減少傾向が継続
- 中でも **熟練溶接人員は年々減少傾向**



造船を取り巻く環境～経済安全保障

- 国内の建造量は直近で大きく減少、日本の船を日本で造れなくなりつつある状況
- 産業競争力/経済安全保障の観点からも、建造能力拡大や生産性向上が大きく求められる



出典：造船業の現況と造船業再生ロードマップについて（国土交通省）

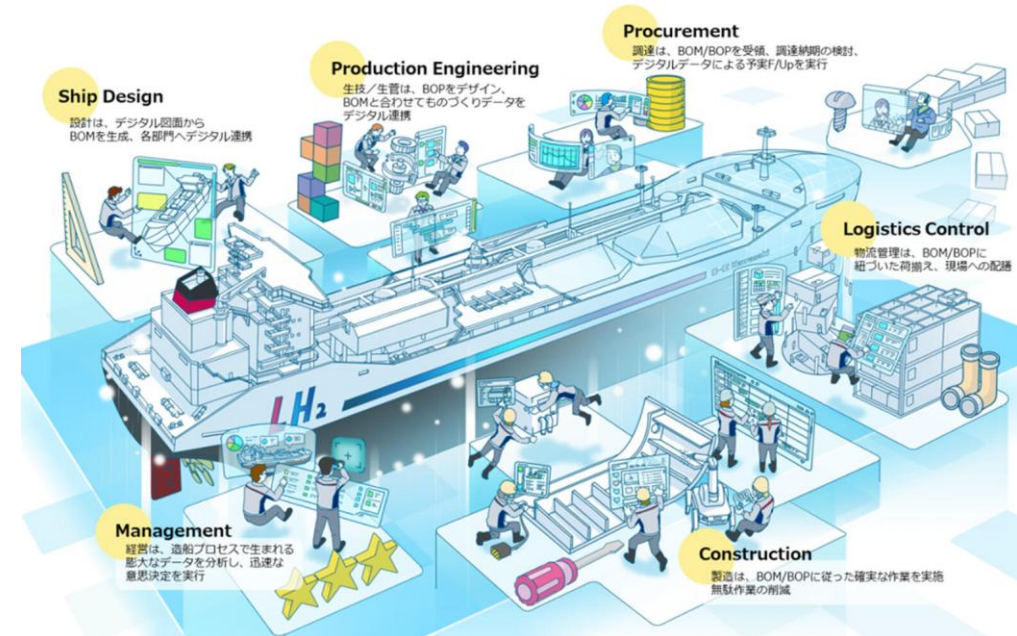
造船業変革の取り組み

■ 将来の建造能力拡大に向け “造船業の変革は必須”と認識

2020年～

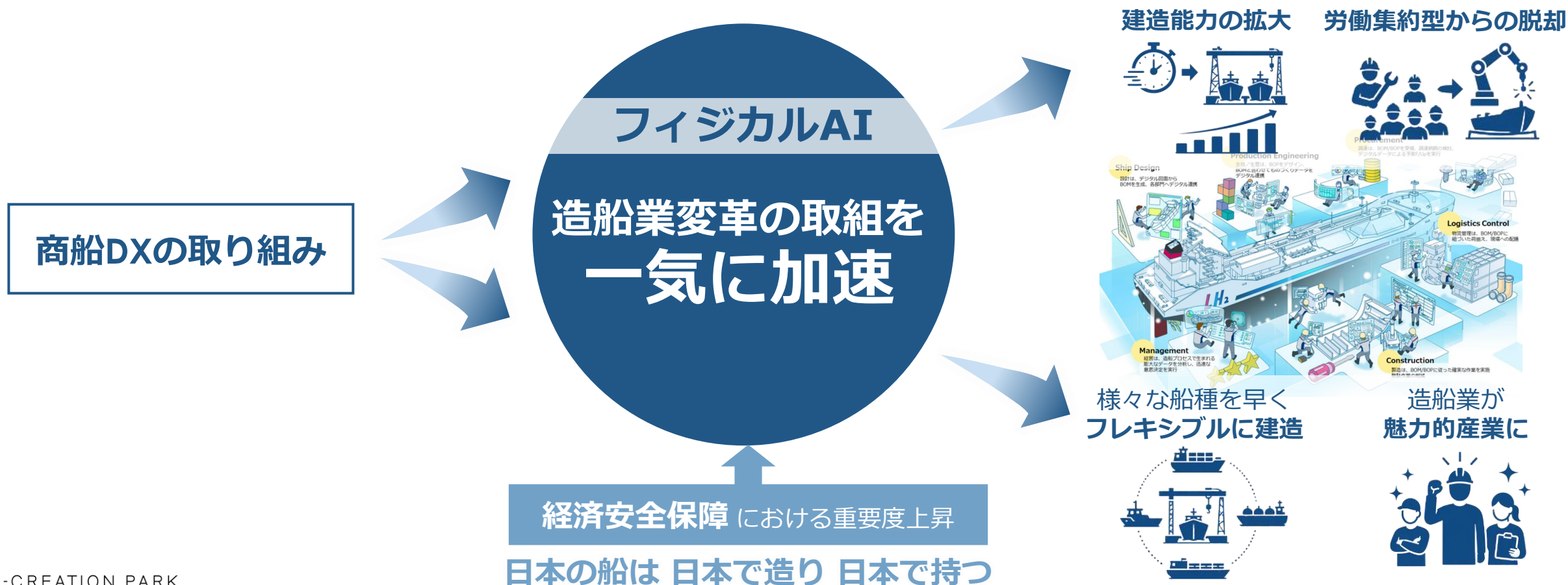
商船DX活動

建造プロセスすべてに係る情報の
デジタル化 現場の自動化 の推進
現場の生産性向上・作業標準化活動とも連動



Kawasakiのアプローチのさらなる展開

- 商船DX活動を土台に、造船業の変革を **フィジカルAIの活用で一気に加速**
- **フィジカルAI活用のパイオニアとして、他国も持たない新たな造船業のモデルを形成**



造船現場における自動化の難しさ

造船現場の自動化 は一筋縄ではいかない



複雑な現場環境

定型的な動きや
固定場所の作業ではない

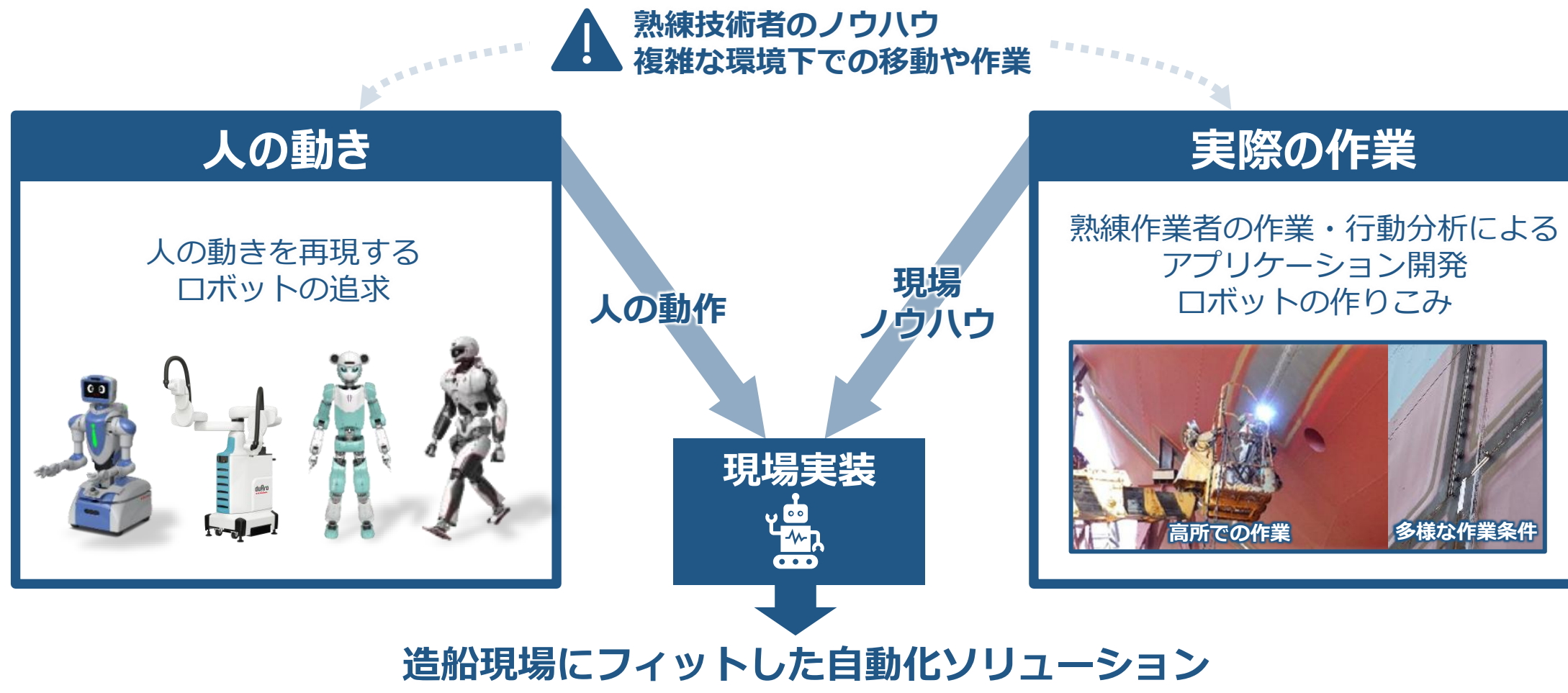


暗黙知が多く存在

熟練工の溶接ノウハウ
作業1つでも特有のコツが必要

造船現場の自動化を実現するためのアプローチ

- 人の動きを再現するロボットの追求と熟練作業者の行動分析によるロボットの作りこみという双方向のアプローチにより、一筋縄でいかない造船現場自動化の実現性が高まる



Kawasakiが自社から行う造船現場の変革



自動化技術・データ/ノウハウ・フィールドを全て持つKawasakiだからこそ
フィジカルAI により スピーディー に 造船現場を変革



造船業をより環境変化に強く、持続可能な産業へ

- 造船における自動化は、単なる人からロボットへの作業の置き換えにとどまらない
- 人が作業するために必要であった**周辺環境・インフラ含め変革**
さらに酷暑や風雨などの**労働環境の影響を受けない、強く持続可能な産業へと変革**



デジタルシップヤードにより造船業全体を変革

- 製造現場の自動化にとどまらず、フィジカルAIを活用し造船業全体の変革へとつないでいく



商船事業への投資とリターン

- 造船業を取り巻く環境は大きく好転し、全社収益に大きく貢献
- 自動化・ロボット化、デジタルシップヤード化、建造能力増加等を目的に **約1,000億円** を投資

坂出工場への設備投資額

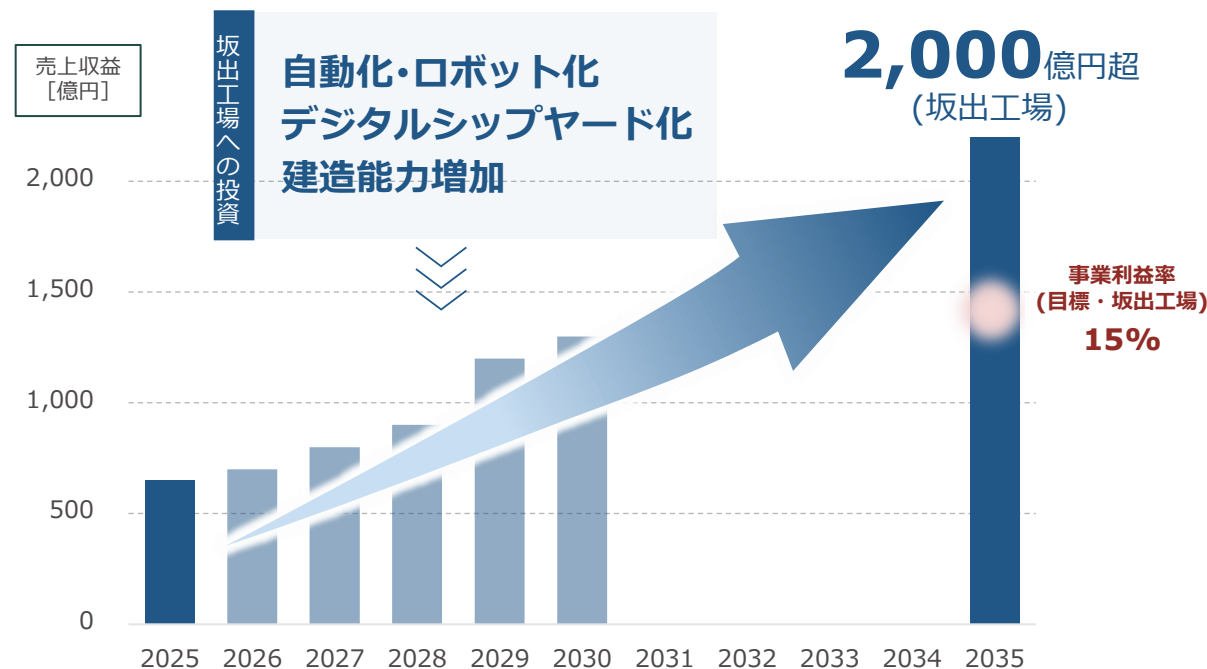
(商船事業／2026～2035年まで)

約 **1,000億円**

- 造船業再生基金対象の投資額：450億円
- その他の投資額：550億円



国内主要拠点である坂出工場の建造能力・競争力強化
売上収益・利益率をさらに向上



QoLの向上・豊かな社会へ

くらしの変革

これまでのヘルスケア領域における実績

■ 治療から院内業務・介護へとソリューションの範囲と実績を拡大

地域格差の拡大

居住地による医療・介護への
アクセス格差

医療・介護をとりまく 社会課題

慢性的な人手不足

医療従事者不足・病床数不足
介護従事者不足・施設の逼迫



治療



院内業務



介護

手術支援ロボット：hinotori™



累計手術件数

(’26年9月末、グローバル)

22,000+

2025年

欧州と日本間で初となる
遠隔手術の実証実験に成功

2026年

欧州医療機器規則に
基づくCEマーク認証取得

グローバルに展開中

*hinotoriは株式会社メディカロイドの商標です

看護・院内業務効率化



院内業務の見える化と効率化
看護師の搬送業務を代替

【サービス導入実績（累計）】

2026：13病院・2027：80病院（見込）

介護従事者の負担軽減



行動計測により業務を可視化
職員の働き方改革とケアの質向上を両立

【サービス導入実績（累計）】

介護施設：30施設／医療機関：12病院（見込）

ヘルスケアソリューションはグローバルへ展開が進む

欧州

KIC-EU

Kawasaki Innovation Centre Europe SAS



ワンストップソリューションの具現化

France
(Strasbourg)

医療



介護



国内での実績を着実に拡大

米国

Kawasaki Physical AI Center San Jose

Kawasaki Physical AI Center
San Jose



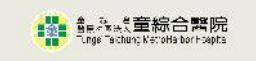
ヘルスケア分野での協業・共創推進

U.S.A
(San Jose)

台湾

医療現場の課題解決

看護業務の負担軽減



鴻海科技グループとの共同開発・実証実験
(台北榮民総医院・童綜合医院)

豪州

介護現場の課題解決

ケアマネジメントの見える化



HillView Merrimac
(オーストラリア・クイーンズランド州)

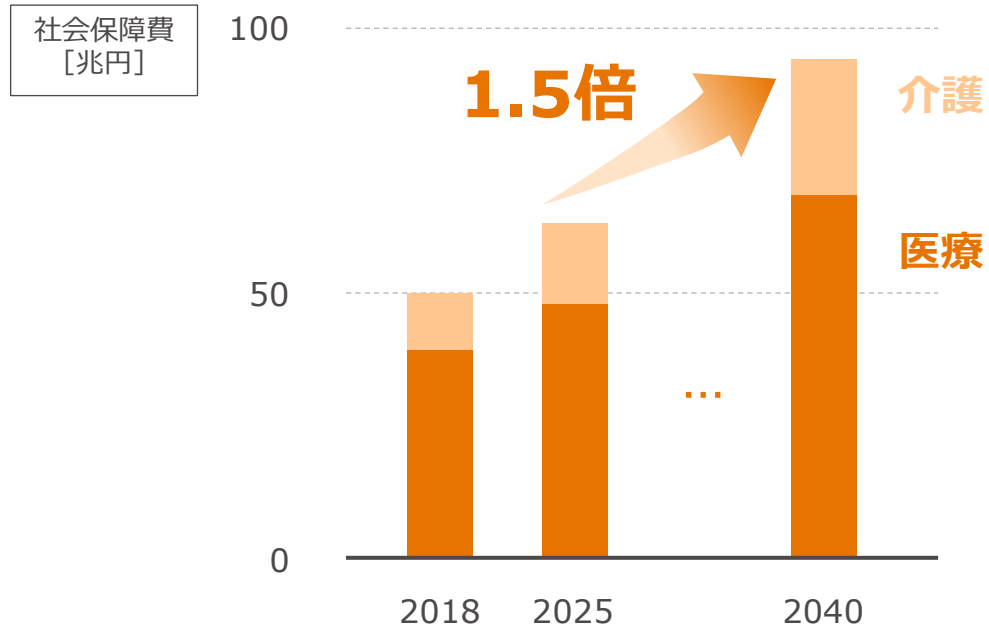
ヘルスケアにおける大きな社会課題

■ 継続的な現役世代の減少と高齢化社会の進展が見込まれる中...



社会保障費 の増大

2040年までに約**1.5倍**に増加
国の財政を圧迫

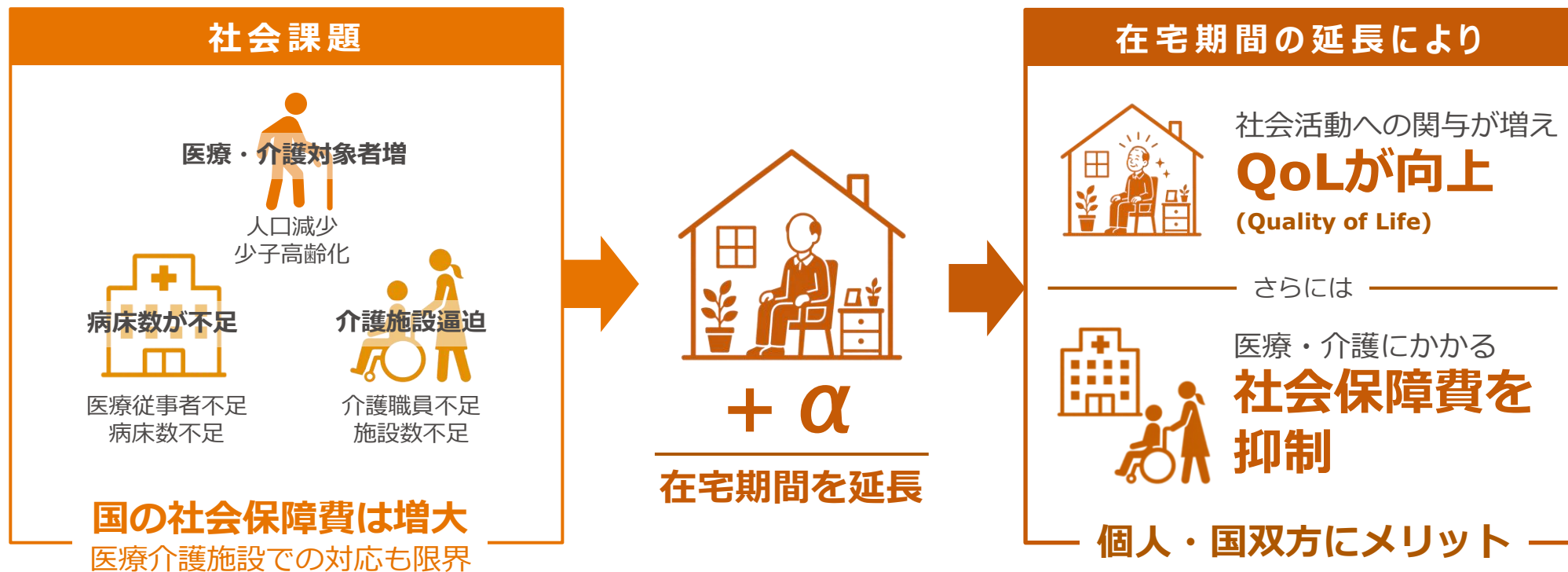


高齢化の進展で医療・介護需要はさらに拡大
個人の医療・介護への支出額も増大



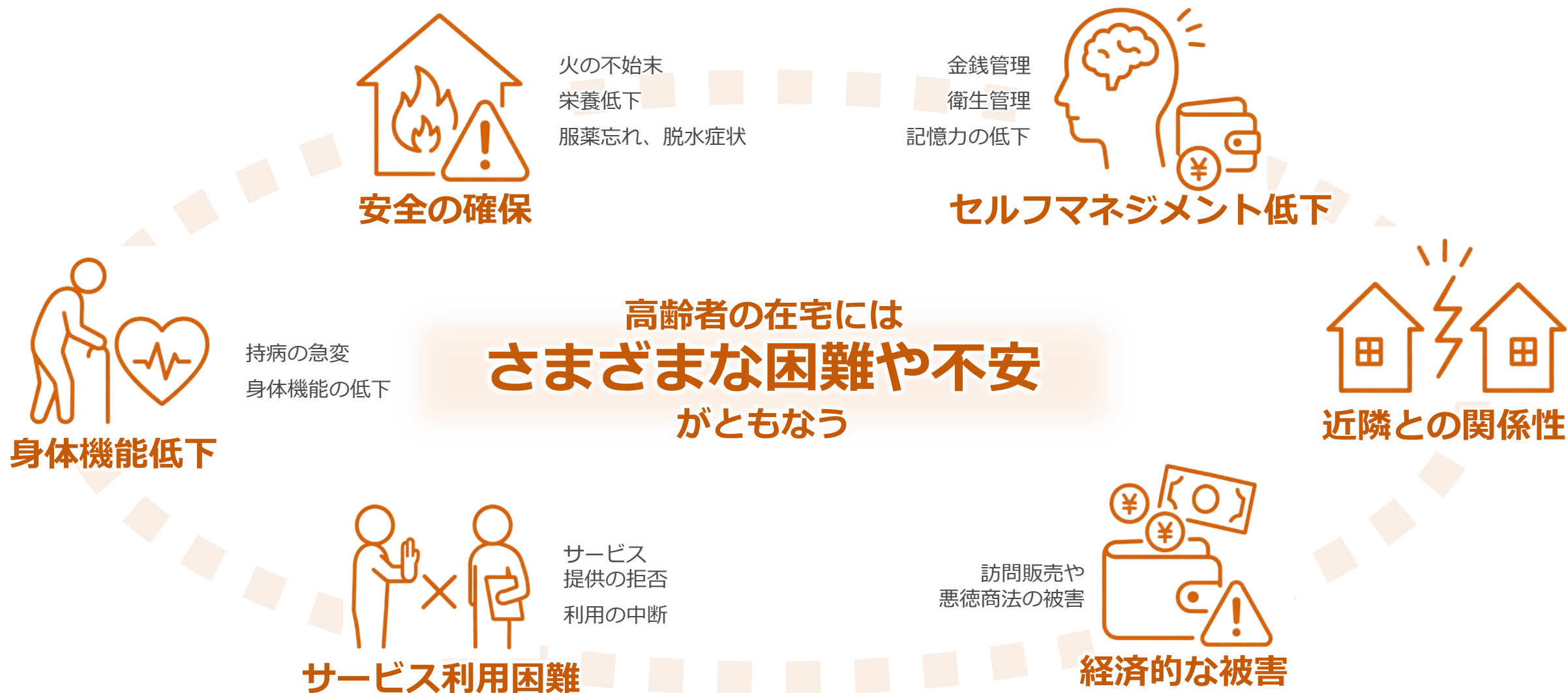
ヘルスケアにおける“在宅”の重要性

- **高齢者の“在宅期間延長”** が課題解決にむけた1つのソリューションに
在宅サービスの充実を図り、在宅の限界点を高めていく取組の重要性は国の認識とも一致
- 在宅期間が延びることで、QoL^(※)の向上とともに国の社会保障費・個人の医療介護費用抑制が期待



(※) QoL : Quality of Life ・個人が自身の生活に、いかに充実感や満足感をもっているか
出典 : 地域包括ケアシステムの更なる深化・推進について (令和4年5月16日・厚生労働省 老健局)

高齢者の在宅を取り巻く状況



COR/LEO



多脚型オフロードビークル
Robotic Multi-legged Vehicle



在宅延長を可能にするソーシャルロボット

Home LEO

住み慣れた**自宅**で
充実した**暮らし**を
続けられる**社会**へ

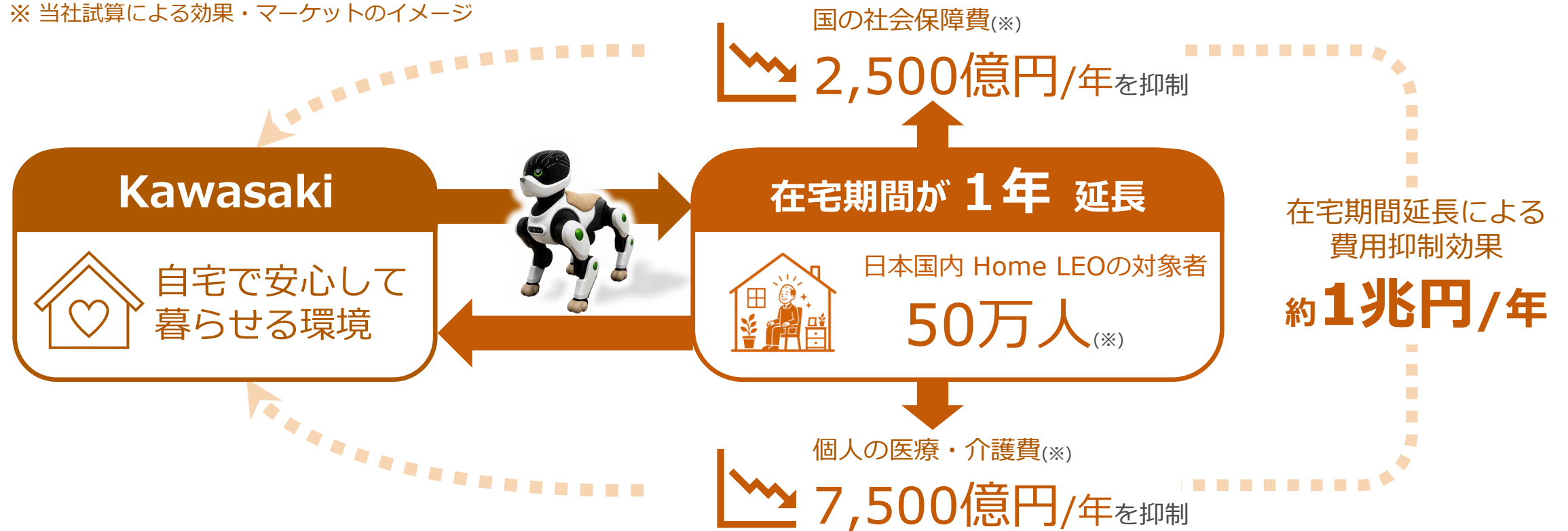




Home LEOのマーケットと展開

- 高齢者の在宅期間延長に伴う費用抑制効果の規模は **約1兆円/年** にのぼると推計
- Home LEOのコンセプト：「在宅期間をできるだけ延ばせるようなサポートをする」

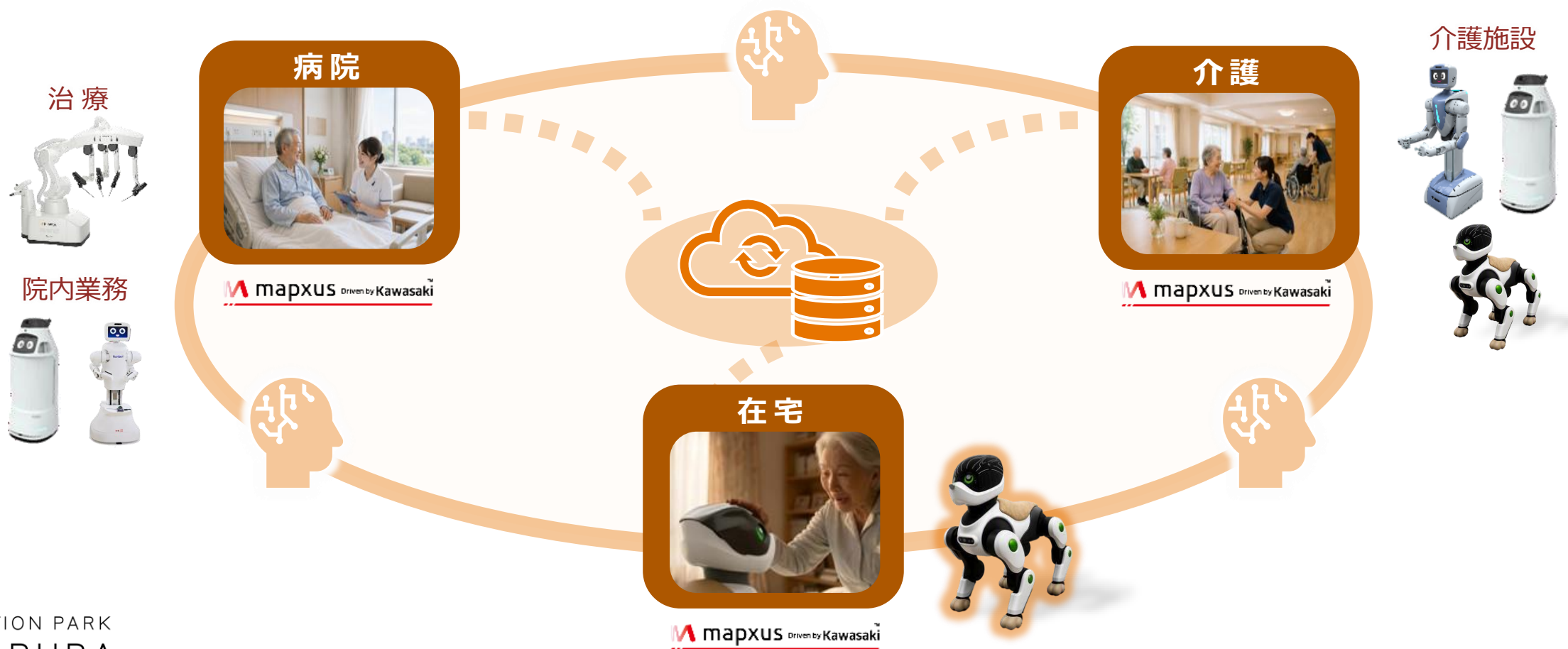
※ 当社試算による効果・マーケットのイメージ



(※) 各種レポートにより当社試算

Home LEOにより、“在宅”をつなぐ

病院・介護・在宅がつながる ヘルスケア・ワンストップソリューションを提供



Kawasaki×フィジカルAIでめざす姿

エネルギー・環境ソリューション

近未来モビリティ

安全安心リモート社会



Kawasaki×フィジカルAIで

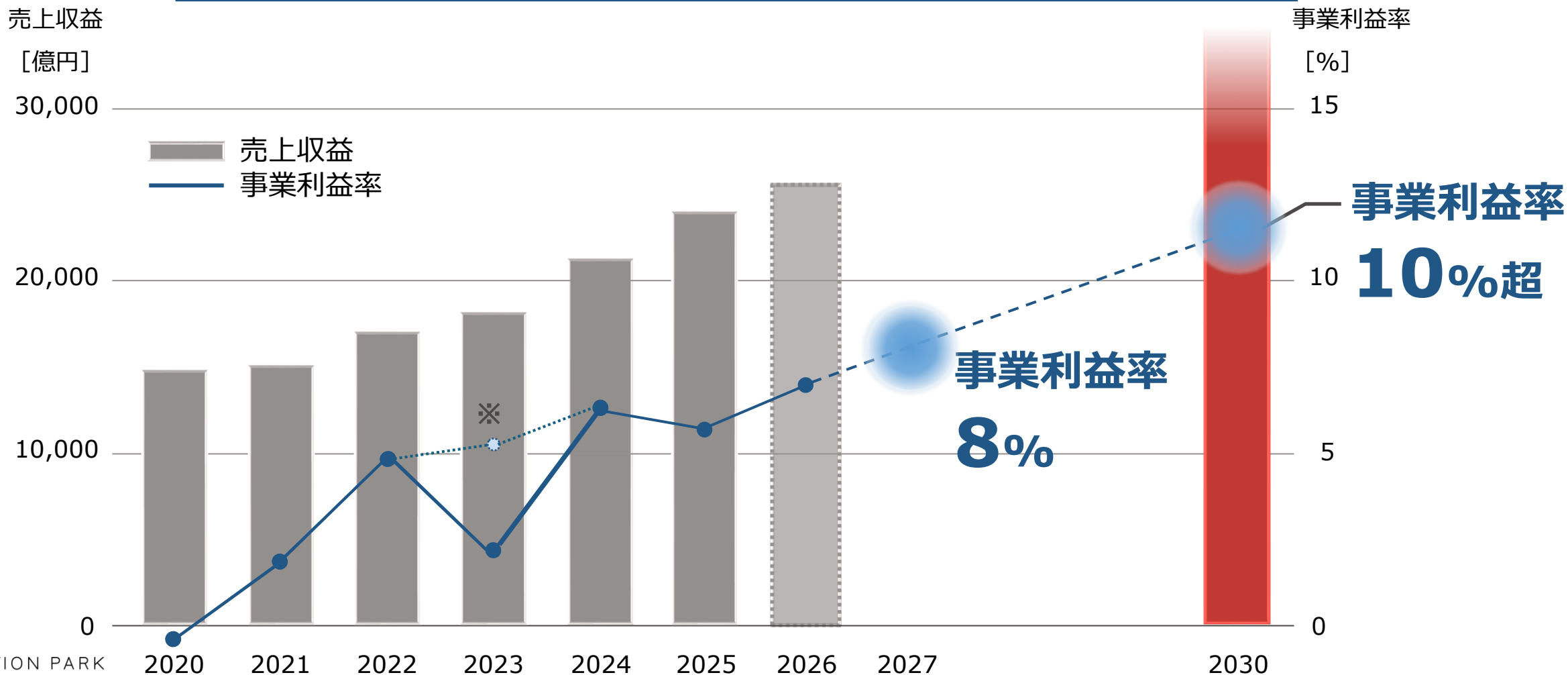
ものづくり
の変革

つぎの社会へ、変革を加速

くらし
の変革

2030年に向けた事業計画のアップデート

資本性調達を活用した、他社に先駆けた確実・機動的な投資を実行し、
2030年度に**売上収益3.3兆円超、事業利益3,300億円超(事業利益率10%超)**を実現する



New Values



安全安心リモート社会

つぎの社会へ、
信頼のこたえを

Trustworthy Solutions
for the Future



Cross Over



エネルギー・環境ソリューション



近未来モビリティ

Frontier

